

絶滅が危惧される日本産食虫植物

著者	小宮 定志
雑誌名	日本歯科大学紀要．一般教育系
巻	24
ページ	139-173
発行年	1995-03-20
URL	http://doi.org/10.14983/00000442



絶滅が危惧される日本産食虫植物

Treatened Japanese Carnivorous Plants

歯学部 小 宮 定 志

Sadashi KOMIYA

Department of Biology, The Nippon Dental University
Fujimi, Chiyoda-ku, Tokyo 102, JAPAN

(1994 年 11 月 28 日受理)

まえがき

日本植物分類学会の推薦により、環境庁自然保護局から“生物多様性調査（種の多様性調査）及び植物版レッドデータブック作成への協力”を依頼されたのを契機に、日本に野生する食虫植物のうち絶滅が危惧される 13 種について、それぞれの発見史、分布、標本、文献等のデータを収集し、そのうち可能な限り現存自生地を踏査した結果をまとめて中間報告する。

1989 年発行の我が国における保護上重要な植物種および群落に関する研究委員会種分科会編「我が国における保護上重要な植物種の現状」（日本自然保護協会、世界自然保護基金日本委員会発行）、いわゆる植物版レッドデータブック（RDB）の改訂版作成のための調査作業に取掛っているわけであるが、その調査対象とされるべき「環境庁委託絶滅危惧植物調査、調査対象種一次リスト」（日本植物分類学会、1994）13 頁にモウセンゴケ科の 4 種が掲載されている。つまり、ムジナモ、ナガバノモウセンゴケ、ナガバノイシモチソウ、イシモチソウであり、このうちムジナモとナガバノイシモチソウが絶滅寸前（En）、他の 2 種が危急（V）という評価になっている。絶滅寸前の 2 種については、既に「ムジナモとその最後の自生地宝蔵寺沼」（日本歯科大学紀要 18 号 97～143 頁、1989 年）及び「総説ナガバノイシモチソウ」（日本歯科大学紀要 23 号 125～155 頁、1994 年）にまとめて報告したので、残る 2 種について報告する。

そして、「一次リスト」31頁にはタヌキモ科の9種が掲載されている。そのうち、ムシトリスミレ属の2種は特に、稀少種(R)系列(分布が局限されている種で個体数が限られているため絶滅が危惧され、より充実した保護の対象となる)に加えられている。そのうちの1種コウシンソウについては、既に「庚申山の植物調査報告(1)コウシンソウの分布と高等植物目録」(日本歯科大学紀要16号165~220頁,1987年)及び「日本を代表する食虫植物コウシンソウ」(日本の生物2巻6号49~56頁,1988年)にまとめて報告した。他方の1種カラフトムシトリスミレ *Pinguicula villosa* は日本には分布しない(色丹島, サハリン以北に分布——たくぎん総合研究所編「北海道高等植物目録」IV, 103頁, 1987年に“?釧路”と収載あり)。さらに、浮遊生のタヌキモ類として、タヌキモ、フサタヌキモ、ミカワタヌキモ(イトタヌキモ)、ヒメタヌキモ、ヤチコタヌキモの5種がリストアップされているが、タヌキモ *Utricularia australis* の種の範囲については異論があり、本州以南に広く分布するイヌタヌキモ *U. tenuicaulis* そのものとみなすか、または、北海道と本州北半分に点在分布するタヌキモ *U. vulgaris* var. *japonica* に限定するかで、調査方法に相異が生ずる。従って、この報告では保留することとし、タヌキモを除いた4種についてのみまとめておく。なお、これらのうちフサタヌキモのみが絶滅寸前(En)と評価されている。陸生のタヌキモ属、つまりミミカキグサ類としてはヒメミミカキグサとムラサキミミカキグサの2種がリストアップされているが、前者については既に「総説ヒメミミカキグサ」(日本歯科大学紀要23号105~123頁,1994年)で報告済みである。

(1) ナガバノモウセンゴケ *Drosera anglica* Hudson, Fl. angl. ed. 2, 135 (1778)

シノニム: *D. americana* Willd., Enum. Pl. Hort. Bot. Berol. 340 (1809)

D. anglica DC, Prodr. 1: 318 (1824), non Huds.

D. intermedia sensu acut Japan, non Hayne

D. longifolia L., Spec. Pl. ed. 1, 282 (1753), pro parte

D. longifolia L. var. *anglica* F. Schultz, in shedis

D. longifolia var. *vulgaris* Koch, Synops. Fl. Germ. 90 (1835)

〈発見史〉

本種がいつ頃誰によって発見されたかは定かではないが、リンネ著“Species Plantarum”(1753)282頁に *Drosera longifolia* として記載されている。それ以前にもリンネは Flora Lapponica 110頁(1737)や Flora Suecica ed. 1, 258頁(1745)でも記述している。ところが、1753年の記載では単に foliis oblongis (葉は長楕円形)とだけ特徴を示し、ヨーロッパに広く前種モウセンゴケ *D. rotundifolia* と共存するが、モウセンゴケと較べ

てははっきり区別できる——と記述している。後に、*D. longifolia* のタイプ標本が残されていないため、*D. intermedia* Hayne (1800) が混用されていることが分かり、どちらが正しいリンネ種かの判断がつけかねて結局 2 つの独立種に区分され、ナガバノモウセンゴケには *D. anglica* Hudson (1778) が当てられるようになった。

元来、北方系寒地生の植物であるが、1860 年代にハワイのカウアイ島にも野生することが知られるようになった。現地駐在官であった Knudsen が Waimea で採集した標本を Hillebrand のもとへ送り、“Flora Hawaii Island” 122 頁 (1888) に収載された。また 1870 年に、Wawra は Waialeale で採集し、Flora 誌 56 巻 173 頁 (1873) に報告している。近年ボーリング調査の結果、晩氷河期の後半の温暖期の地層からナガバノモウセンゴケの花粉化石が見つかった。恐らく、チドリ科の渡り鳥ムナグロ *Pluvialis dominica* によって北のアラスカから種子が運ばれたものと考えられている (Degener & Ziegenspeck 1957)。ついでながら、京都大学理学部標本庫 (KYO) には 1909 年に Faurie (n. 1145) が現地で採集した標本が収蔵されている。

〈分布〉

ヨーロッパ北部、シベリア、北米北部、カムチャッカ、エトロフ島、クナシリ島、日本 (北海道、尾瀬)、ハワイ (Kauai 島)

〈日本における分布と発見史、そして現状〉

a. 尾瀬地方

1900 年 2 月発行の植物学雑誌 14 巻 2 号 32 頁に“ながはのまうせんごけ岩代国ニ産ス”と題して牧野富太郎が報告したのが、本州 (尾瀬) にもナガバノモウセンゴケが野生することを初めて報じたものである。その報文の中で牧野は最初の発見者を“根本莞爾氏ノ一門下生明治 32 年 (1899) 8 月之レヲ岩代国南会津郡駒ヶ岳山中ノ尾瀬平ニ採集セシ者ナリ……”としか書いていないが、それは星大吉であった。この前年、1898 年 8 月 11 日川上瀧彌が千島エトロフ島アトイヤ山で本種を発見し“ナガバノモウセンゴケ”と和名をつけたばかりであった (博物学雑誌 15 号 16 頁, 1899 年)。後に、実は尾瀬での最初の発見者が早田文蔵であることが明らかとなった。1898 年 7 月 3 日、早田は尾瀬湖畔の沼尻で発見し、採集標本 (MAK-72456) を牧野のもとへ届けていたのである。早田自身は 1903 年 1 月発行の植物学雑誌 17 巻 1 号 8 頁雑録「南会津並ニ其ノ付近ノ植物」の記事の中で採集時の状況を述懐している。こうして、川上のエトロフ島での発見よりも 1 ヶ月早く尾瀬で発見されていた事実が明らかにされた。牧野も 1905 年発行の植物学雑誌 19 巻 21~22 頁の英文記事の中で、日本における最初の発見者が早田であること、記録標本として早田の採品を紹介している。

1950年代から尾瀬が観光地化し、多勢のハイカーが陸続として訪れるようになり、湿原は踏み荒されて裸地化が著しくなって植生の保全が危ぶまれるようになった。ようやく1970年代後半から湿原の回復が計られるようになり、木道も整備された。しかし、年間50万人以上の観光客が押しかけるとあって、汚水による湿原の富栄養化が深刻な問題となっている。当然、ナガバノモウセンゴケの生育範囲も狭められたが、最近いく分群生が回復しつつある。

b. 北海道

北海道における採集記録としては、1910年7月26日西田彰三が江別市対雁^{ついで}で採集した標本が最古のもので、北海道大学農学部標本庫に収蔵されている。次いで、1934年6月22日大井次三郎による北見枝幸郡浜頓別町、同年8月16日原寛によるサロベツ原野での採集記録がある。そして第4の自生地として、大雪山沼ノ原(標高1450m)で1951年8月12日豊国秀夫によって発見された。その他、文献上の記録として美唄泥炭地(星野好博1939)と霧多布湿原(田中瑞穂1959)にもナガバノモウセンゴケが野生するといわれたが、その証拠標本は見出だすことができず、既にその地域には現存しない。

北海道で最大の生育地であったサロベツ原野では、1980年代から排水溝がめぐられ乾燥化が急激に進行した。豊富町側の上サロベツ地域では草原と化して、ナガバノモウセンゴケは絶滅した。幌延町側の下サロベツ地域の一部に僅か残存しているのみである。浜頓別町の自生地も牧場などに開発されて、極めて狭い地域にごく僅か残存するのみで、絶滅寸前である。大雪山沼の原のナガバノモウセンゴケも激滅したが、平地に較べてはるかに群落密度は高い。最古の発見地、江別市対雁の自生地は開拓によって既に消滅している。

〈細胞学的知見〉

サジバモウセンゴケ *Drosera* × *obovata* ($2n=30$) が、ナガバノモウセンゴケ ($2n=40$) とモウセンゴケ ($2n=20$) の自然交配種であることは Rosenberg (1903, 1904, 1909), 桑田 (1911), 島村 (1941) らによって細胞学的に立証されているが、最近 Cronquist (1991) は核型の知見から、ナガバノモウセンゴケそのものがモウセンゴケと *Drosera linearis* ($2n=20$) との交雑でつくられた複倍数体であると示唆している。北米北部にのみ野生する *D. linearis* 由来のナガバノモウセンゴケが、シベリアからヨーロッパ北部、そして、日本やハワイへまでもその分布域を拡げたこととなり、大変興味深い。

〈現存する標本リスト〉

北海道：(宗谷) 豊富町上サロベツ——宮部・横山 1938.9.13 SAP; K. Yoshida 1953.7.25 SAP; Hotta 1966.8.10 KYO (n. 16728), MAK-63149; 小宮 1969.9.4 NDC-5074~5077

浜頓別町——大井 1934.6.22 KYO (n. 4544) ; 高橋他 1986.8.6 SAPT (B.G.) (n. 6657) ; 植松 1990.9.9 (個人所有) ; 勝俣 1992.8.30 NDC-7067

(留萌) 幌延町下サロベツ——原 1934.8.6 TI ; 外山 1988.7.28 NDC-5910 ; 勝俣 1994.7.29 NDC-7165

(十勝) 大雪山沼ノ原——豊国 1951.8.12 SAP (n. 2761), 1953.8. TNS-128474 ; 鮫島・三角 1952.8.9 SAP ; 岡本 1959.8.19 KYO ; 滝田 1992.8.17 (個人所有) (n. 5598), 1992.8.28 (n. 5739) ; 渡辺・大木 1959.8.19 TNS-269078, 269212 ; 高橋他 1982.8.8 SAPT (B.G.) (n. 2943)

(石狩) 江別市対雁——西田 1910.7.26 SAP

本州：尾瀬沼——早田 1898.7.3 MAK-72456 ; 牧野 1902.8.5 MAK-72457, 72458 ; 早田 1903.7.30 MAK-72459, TI, 1904.8.19 MAK-70689, 70690, 72460, 1905.8. MAK-72461, 72462 ; 中山 1906.7.29 MAK-72463 ; 鈴木 1907.8.28 MAK-72464 ; 玉木 1910.8.9 KYO ; 平野 1910.8.20 TI ; 牧野 1929.8. MAK-70691~70693, KAN, KYO ; 里見 1955.8.4 TOCH-41394

尾瀬ヶ原——星(根本門下生) 1899.8.6 MAK-95201 ; 中原 1904.8.20 TNS-24458, TI ; 栗原 1921.8.8 OSA ; s. col. 1925.8.12 KYO ; Kohiyama 1927.8.13 MAK-72466 ; 牧野 1929.8. MAK-70694, KYO, KAN ; 田代 1932.7.26 OSA-6903, KYO ; 大井・田川 1935.8.5 KYO (n. 8954) ; M. Togashi 1939.8.11 TI, 1939.8.13 MAK-72467 ; 小暮 1948.7. TNS ; 鈴木 1949.7.13 TKB-68102 ; 関谷 1950.8.28 NDC-5069 ; 小宮 1950.8.29 NDC-5070 ; 丸山 1950.8.30 TNS-306835 ; 小宮 1951.7.24 NDC-5071, 1951.7.28 TNS-109450, 1951.8.30 NDC-5078~5083 ; Ookobara et Saito 1953.8.26 TNS-106644, MAK, KYO, KAN, TUS ; 相馬 1954.8.3 TKB-68103 ; 小宮 1954.8.6 NDC-5073 ; 安井 1955.7.27 OSA

アヤマ平——平田 1958.8.1 MIYZ-13322

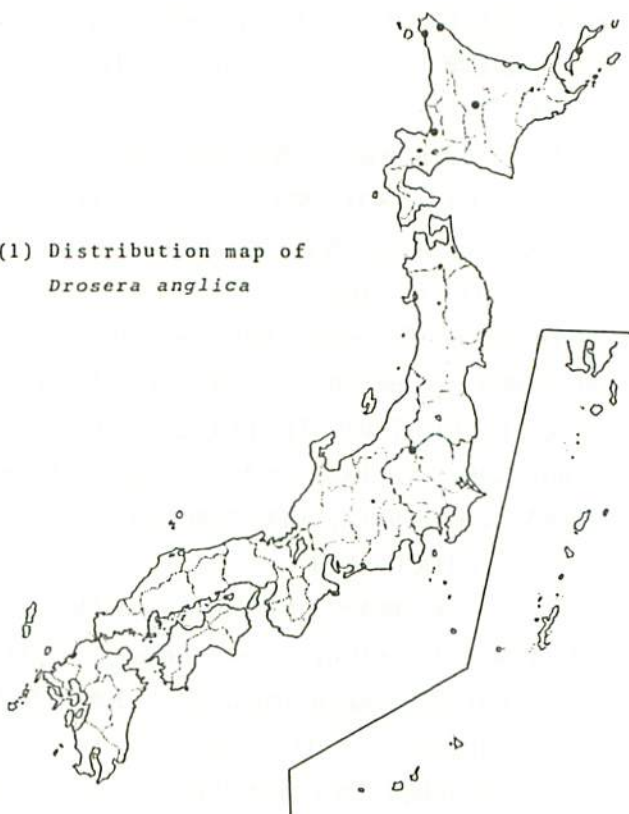
広沢田代——馬場 1968.8.10 TNS-222697

花沼湿原——Suganuma 1960.8.5 KYO (n. 3066)

尾瀬——s. col. 1903.8.5 TNS-19141 ; 大沼 1906.7.29 TNS-62114 ; 原沢 1910.8.1 MAK-72465 ; R. Endo 1910.8.9 TUS-21840 ; 板橋 1919.8. SAP ; 武田 1924.7.10 TNS-231195 ; 深田 1927.8.8 OSA ; K. Yamamoto 1928.9.29 OSA ; 三木 1933.7.8 OSA ; 宮崎 1933.8.6 TNS-65714 ; M. Togashi 1934.8. TI ; 遠藤 1942.8.2 MAK-72468 ; 寺本 1944.8.5 TI ; 中井 1946.7.18 OSA-2950, KYO (n. 2683), 1946.7.19 KYO (n. 2683) ; 里見 1947.8.6 TNS-79563 ; K. Imabori 1949.7.8 KAN-1077 ; K.

Ashihara 1949. 7.
KAN - 57636 ;
M. Nishida 1950. 7. 16
KAN - 14195 ; 射越
1951. 7. 23 TNS -
102556 ; S.
Okabe 1953. 7. 21
TUS - 21843 ; Sug-
awara 1954. 7. 13
TUS - 21841 ; 加藤
1954. 8. 18 TOCH -
41393 ; 島野 1955. 7.
26 TNS - 142736 ; 大
橋 1955. 7. 30 TUS -
21837 ; 澁佐 1962. 7.
18 TOCH - 8140

(1) Distribution map of
Drosera anglica



(2) イシモチソウ *Drosera peltata* Thunberg, Diss. Bot. 2, *Drosera* 405 (1797)

シノニム : *D. intermedia* herb. Royle ex C. B. Clarke in Hook. f., Fl. Brit. Ind. 2 :
425 (1875), non Hayne
D. lunata Buchan. ex Matsum., Nomen 70 (1884)
D. lunata Hamilt. (Buchan.) in DC., Prodr. 1 : 319 (1824)
D. lunata Hook., Ic. Pl. t. 54 (1836)
D. muscipula Royle, Ill. Bot. Himal. 75 (1839)
D. nipponica Masamune in Trans. Nat. Hist. Soc. Form. 23 : 207 (1933)
D. peltata Sm. in Willd., Spec. Pl. I, 1546 (1797)
D. peltata Sm. var. *glabrata* Y. Z. Ruan in Act. Phytotax. Sinica 19 :
343 (1981)

D. peltata Sm. var. *lunata* (Buch.-Ham.) C. B. Clarke in Hook. f., Fl. Brit. Ind. 2: 424 (1879)

D. peltata Sm. var. *multisepala* Y. Z. Ruan in Act. Phytotax. Sinica 19: 341 (1981)

D. peltata var. *nipponica* (Masam.) Ohwi, Fl. Jap. 584 (1953)

〈発見史〉

オーストラリア・ニューサウスウェルズ州のボタニ湾（現、シドニー市）周辺で、18世紀末 John White らによって採集された植物標本を整理して、1793 年 J. E. Smith が “A Specimen of the Botany of New Holland” を出版した。この本の中で不明新種として紹介されたのを、1797 年 C. P. Thunberg が正式に *D. peltata* と命名し公表した。ところが、同年に出版された C. L. Willdenow 編 “Species Plantarum” 増訂版 1 巻 1546 頁に命名者が Smith と誤って記入され、これが後世まで普及してしまった。

〈分布〉

オーストラリア東～南・西部、ニューギニア、マレーシア、インド、ネパール、中国、朝鮮、日本

〈日本における分布と発見史、そして現状〉

日本及び中国の文献上に出現する最古の食虫植物がイシモチソウで、中国で 1590 年頃出版された李時珍著「本草綱目」に茅膏菜（または石龍牙草）^{ばいこうさい}の漢名で薬草の一種として記録されている。これを引用して日本に初めて紹介したのが、小野蘭山述・小野職孝編「本草綱目啓蒙」（1803）で、そこにはハイトリバナ（スナモチ江州、イシモチ播州）の和名が示されている。

シーボルトが江戸参府の帰途、静岡県磐田市見付でモウセンゴケを採集したが、その翌日の 1826 年 5 月 26 日二川村と吉田（現、豊橋市）との間、恐らく高師原の湖辺でイシモチソウ（*Drosera muscipula* の学名で記録）を見出したと「江戸参府紀行」に書き残している。この時採集された標本がライデン博物館に保管されているかは未調査である。日本で確認できる最古のイシモチソウ標本は、国立科学博物館に保管されている採者不詳 1879 年 5 月 1 6 日愛知県宝飯郡御津町佐脇原産のものである。次いで古いのが、1882 年 7 月 17 日森田豊蔵が千葉県夷隅町で採集した標本で東京大学に保管されている。

その後、1886 年森吉太郎が岐阜県各務原市で、同年市村塘が滋賀県栗田郡追別村で、そして、1888 年須川長之助が九州で、桜井半三郎が三重県菰野町と高野山麓で採集している。こうして、中部地方以西の分布が次々と明らかになったが、関東での記録は森田から遅れること 18 年、漸く 1900 年 6 月城数馬が千葉県一の宮町で採集してから盛んに記録

が残されるようになった。

現在、関東でイシモチソウが現存する処は成東町の天然記念物指定地のみである。静岡県でも菊川町周辺では激減し、愛知県でも豊橋市では激減、知多半島にやや豊富に残されている程度である。大阪府・兵庫県・岡山県・広島県・愛媛県でも急減したが残存する。しかし、石川県・島根県・九州にはほとんど現存しないようである。

〈現存する標本リスト〉

関東：茨城県鹿島町——牧野 1931, MAK；神栖町軽野——曳野 1934, 5, 18, TI
千葉県佐原市——久保木 1903, 7, 27 MAK；成東町——久内 1919, 5, 25 TI, OSA；T. Nakai 1920, 5, TI；大井 1925, 6, 14 KYO；亘理 1929, 8, TKB-68099；Y. Fukuda 1969, 6, 21 TI；東金市武射田——牧野 1920, MAK-70704, KAN, URO, KYO, 1931, 6, MAK-70701, 70702, KAN, URO, KYO；佐藤 1933, 6, 10 TNS-40764；福岡依古島 T. Koyama 1955, 5, 20 KYO (n. 6974)；一宮町——城 1900, 6, 5 TI, 1901, 7, MAK-72487；牧野 1902, 7, 5 MAK-72488, 1904, 6, 24 MAK-72558, 1908, 5, 24 MAK-72490, 1911, MAK-72491, KAN；K. Miura 1911, 6, 4 SAP；田川 1938, 7, 30 OSA-23332, KYO (n. 2495), 1962, 5, 29 MAK-63150, KYO (n. 8659)；茂原市——K. Miura 1910, 5, 26 SAP；牧野 1911, 6, 22 MAK-72492, 1932, MAK-72493；小宮 1949, 4, 29 NDC-5198, 1951, 5, 13 NDC-5199~5203, TNS-109446；原 1951, 6, 8 TI；小宮 1952, 4, 29 NDC-5204；金井 1952, 5, 18 TI；小宮 1953, 5, 10 NDC-5205, 1954, 4, 29 NDC-5207~5210, 1954, 7, 25 NDC-5211, 1956, 5, 13 NDC-5212, 1963, 5, 26 NDC-5215~5218；伊藤 1957, 6, 16 TBK-68098；伊藤・相馬 1959, 6, 7 TKB-68097；八積町——Y. Tamura 1938, 6, 1, TI；水島 1959, 6, 14 MAK-33475；牧野 1964, 6, 21 TI (n. 960)；M. Fukuda 1975, 5, 25 TI；夷隅町千町——森田 1882, 7, 17 TI；市原市五井町——H. Muramatsu 1926, 8, TI

中部：静岡県菊川町——小宮 1969, 8, 23 NDC-5220, 5221, 1974, 5, 26, NDC-5222, 1978, 5, 21 NDC-5622, 5623, 1980, 5, 25 NDC-5624, 1984, 5, 20 NDC-5776~5779, 1985, 5, 19 NDC-5829~5832, 1986, 5, 18 NDC-5852, 1988, 5, 22 NDC-5903；柴田 1989, 5, 6 NDC-5940；小宮 1989, 5, 21 NDC-5939, 1990, 5, 21 NDC-5965, 1991, 4, 30 NDC-5991, 5992, 1992, 5, 17 NDC-7041；袋井市可睡斎——H. Muramatsu 1922, 8, TI；磐田郡豊田町——久松 1889, 5, TI；浜松市三方原——小宮 1965, 9, 5 NDC-5219；引佐郡都田町——T. Ohmura 1956, 5, 3 OSA (n. 16452)

愛知県豊橋市佐藤町——古瀬 1911, 5, 10 MAK-72496；豊橋市北西部——芹沢 1990, 5, 17 AICH (n. 54942)；豊川市市田——森 1947, 7, 6 AICH；宝飯郡御津町佐脇原——s.

col. 1879.5.16 TNS-6296；南設楽郡作手村——T. Takagi 1929.5.6 KYO；岡崎市南部——芹沢 1989.7.1 AICH (n. 52179)；西加茂郡三好町——芹沢 1990.5.31 AICH (n. 55291)；愛知郡日進町——芹沢 1990.5.31 AICH (n. 55295)；安城市——K. Ōnuma 1914.4.25 TI；西尾市貝吹——名倉 1900.6.25 MAK-70703, KYO；幸田町——大原 1960.5. AICH；名古屋市桶狭間——瀧崎 1953.6.14 AICH；名古屋市八事山——伊藤 1891.5.10 TNS-62109；春日井市——芹沢 1990.5.31 AICH (n. 55314)；知多郡武豊町——小宮 1958.8. NDC-5213；芹沢 1990.5.25 AICH (n. 55102)；野間町——K. Imahori 1952.8.12 KAN-11612；美浜町——芹沢 1950.5.25 AICH (n. 55125), 1991.6.28 AICH (n. 59063)；美浜町奥田——磯部 1985.6.12 NDC-5859；河合 1992.7. NDC-7046；小宮 1993.5.30 NDC-7132, 7135, 7138, 1993.8.6 NDC-7100；常滑市——林 1990.6.21 AICH (n. 189)；芹沢 1989.5.25 AICH (n. 55111), 1990.5.25 AICH (n. 55093)；常滑市大谷南原——小宮 1993.5.30 NDC-7139, 7140

岐阜県姫町——小宮 1976.8.23 NDC-5226；土岐市——芹沢 1990.6.27 AICH (n. 55721)；可児市——小宮 1976.8.23 NDC-5230；芹沢 1990.6.27 AICH (n. 55687)；日吉町平岩——小宮 1976.8.23 NDC-5621；各務原市鷺沼町——森 1886.6.9 MAK-72494；S. Matsuda 1891.8. KYO

石川県羽咋市高浜——市村 1898.8.10 KAN-1079；上田 1902.5.26 KAN-1429；大矢 1921.8.31 KAN-1028；堀松——I. Shimozawa 1951.7.29 KAN-9589；眉上山——S. Tanaka 1961.6.18 KAN-43347；菊地 1962.7.9 KAN-33713；安宅 1962.7.10 KAN-33804

近畿：滋賀県栗太郡追分村——s. col. (市村?) 1886.7. KAN-1030；上田上村——村田 1954.6.24 KYO (n. 7535)；鷺冠山——橋本 1944.5.21 TNS-101420, KYO；天神川中流——T. Ueda 1961.5.21 OSA-3621；栗東町金勝アルプス——児玉 1973.7.16 OSA-13714；蒲生郡竜王町鏡山——G. Nakai 1944.6.25 KYO (n. 5094)；M. Kuwashima 1986.6.1 OSA-54654；日野町熊野——s. col. 1917.7.23 KAG；甲賀郡水口町春日——Umehara 1991.5.15 OSA-84866, 1992.6.4 OSA-91392；信楽町黄瀬——Umehara 1992.7.21 OSA-91039；高島郡高島町——堀田 1951.5.21 OSA；大津市田ノ上——S. Okamoto 1957.6.10 KYO；堅田町——Y. Kurosawa 1928.8.28 KYO；勢田川——S. Fushimi 1920.7.1 KYO

三重県四日市市御池——安井 1950.5.14 OSA；菰野町——桜井 1888.6. TNS-6297；阿山郡阿山町河合——山本 1934.7.30 KAG；津市——武信 1890.5.20 SAP, 1890.7. SAP；龟山市朝明山——藤井 1990.6.8 OSA-81677；関町鷺山——Kuribayashi 1990.6.

8 OSA-85957; 伊勢(?)——田中 1894.5.30 KYO

京都府船井郡園部町——G. Koidzumi 1930.5.18 OSA-17370, KYO; 京都市左京区嵯峨広沢池——三木 1923.6.18 OSA

大阪府豊能郡箕面山——岸本 1929.8.30 OSA (n. 946); 豊中市上新田——S. Koyama 1958.6.23 OSA; 東豊中——桑島 1939.5.20 OSA; 高槻市阿武山——堀田 1951.5.21 OSA; N. Fukuoka 1957. KAN-27105; N. Fukuoka 1964.7.5 KYO (n. 6730), MAK-33475, TNS-180452; 茨本市福井將軍山——児玉 1969.7. OSA-70401; 生駒山——児玉 1953.7.24 OSA; 柏原市関谷——児玉 1961.7.16 OSA; 和泉市信太山——松田 1896.5.31 TNS-32438; 瀬戸 1952.5.6 KAN-13549, OSA (n. 2081); 槇尾山——渡辺 1896.6.24 TNS-62110; 泉北郡清水村(?)——大町 1898.8.15 SAP; 富田林市滝谷不動——千原 1932.6.26 TNS-38169; 泉南郡三崎町石橋——M. Hori 1960.7.6 OSA; 谷川——瀬戸 1966.6.12 OSA-1796; 雨山——穴田 1968.8.23 OSA-5782; 俎石山——中西 1955.5. OSA; 泉南市新家——青木 1947.6.5 OSA; Umehara 1984.6.29 OSA-45635; 泉南町笠山——瀬戸 1962.6.28 OSA (n. 11194)

奈良県生駒郡平郡町——G. Nakai 1951.6.10 KYO; 当麻町二上山——児玉 1954.5.19 OSA (n. 4941)

和歌山県高野山麓——桜井 1888.5. TNS-6299; 和歌山市若ノ浦——s. col. (松村?) 1888.5. TI; 岡崎——中島 1913.6. TI; 海草郡山東——中島 1917.5. TI; 有田郡金屋町——田中 1933.6.3 KYO; 西牟婁郡白浜町——牧野 1894.7. MAK-72495; 新庄村——中島 1927.5.1 KYO, SAP, 1931.5.16 TI

兵庫県宝塚市山本——富樫 1949.6.20 TNS-84371, TI, 1968.5.26 TI; 川辺郡有馬鎌倉谷——牧野 1936.6.22 MAK-72498; 多紀郡——大町 1890.5. SAP; 氷上郡青垣町——細見 1968.7.28 KYO (n. 7195); 市島町——細見 1936.6.26 KYO (n. 1190); 朝来郡和田山町——細見 1936.6.26 TNS-57086; 出石郡小坂村——堀 1952.6.20 OSA; 丹波(?)——s. col. (市村?) 1891.6.2 KAN-1027; 西宮市二川——瀬戸 1971.6.19 OSA-12215; 苦楽園——田代 1924.5.25 KYO; 西宮~宝塚——M. Hara 1930.5. KYO; 六甲山——上野 1923.5.29 OSA; 栗山 1928.6.10 MAK-72497; 北村 1949.6.12 KYO; 神戸市——北村 1952.6.22 KYO; 白川町——岡本 1936.6.2 TI; 加東郡社町上久米——栗林 1986.5.9 OSA-55584; 社町山国——植田・角野 1988.6.14 OSA-85144; 小野市青野ヶ原——伊藤 1934.6.12 TI; Y. Miyatake 1981.7.2 OSA-39781; 大部町——田代 1937.6.13 TNS-57079; 加西郡北条町法華山——堀 1955.5.30 OSA-63343; 加古川市上荘町——N. Kurosaki 1975.5.24 OSA-21062, KYO; 播磨(?)——牧野

1935.5. MAK -
70705, 1939.5.
MAK-72499; 姫路市
——岡本 1950.5.24
KYO; 津名郡津名町
大町——石上 1943.8.
21 TI; 淡路(?)
——牧野 1939.6.
MAK-70706

中国：島根県松江市古志
原——内藤 1922.5.10
KAG-15903

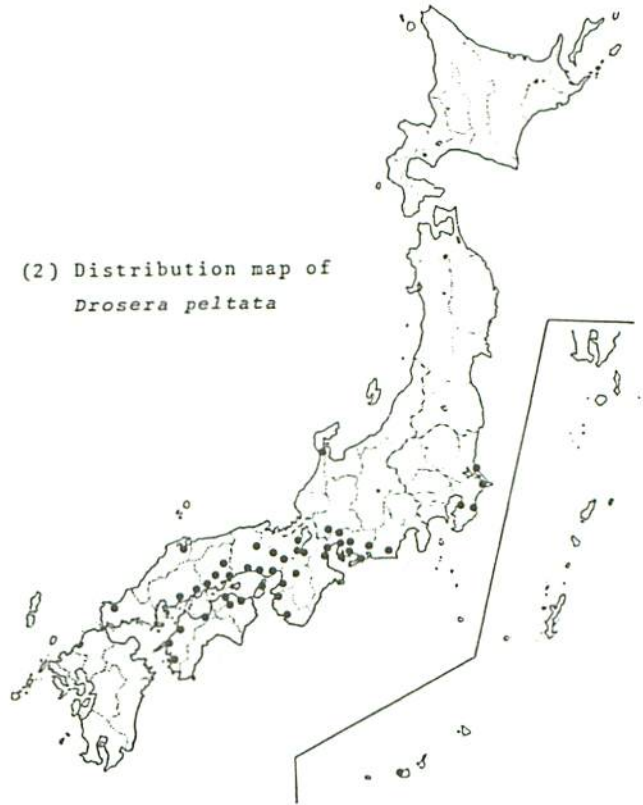
岡山県勝田郡日本原
——生駒 1959.6.20
TNS-141775,
KAN; 英田郡美作町
——S. Arimoto
1903.8.4 SAP; 和気
郡日生町——瀬野
1994.1.4 NDC -
7166; 吉備郡真金村

——二階 1902.7.27 TNS-48312, TI; 総社市宇山——森川 s. d. KYO; 井原市——松
島 s. d. (1897?) TNS-37212

広島県福山市——島村 1902.5 KAN-1078; 賀茂郡河内町——田代 1928.5.27 KYO; 東
広島市下三氷——M. Sato 1932.6.2 KAN-7465; 西条町——松本 1993.5.10 NDC -
7128; 広島市三滝町——Y. Niino 1961.5.19 URO

四国：徳島県鳴門市坂東町——里見 1946.6. TNS-73273, KAN; 三好郡池田町黒沢——
山中 1960.6.26 TUS-21847; 美馬郡脇町岩倉太子山——大倉 1907.6. TI
香川県善通寺市大麻山——内藤 1916.6.4 KAG-12924, 1916.4.28 KAG
愛媛県宇摩郡上分村——石村 1911.5.30 KAG-1162; 松山市江戸山——奥平 1893.6.
SAP; 伊台——山本 1903. KYO; 衣山——奥平 1893.7. MAK-72500; 喜多郡内子町
——山下 1924.6. KYO; 西宇和郡八幡浜町——織田 1913.6.23 TNS-22946; 東宇和郡

(2) Distribution map of
Drosera peltata



宇和町小野田——野村 1960.6.26 KYO; 宇和島市——土居 1902.5. MAK-72501, KYO, 1903.6.14 MAK-72558; 本川内山——緒方 1925.7.30 KYO
九州:(?)——Tschonoski 1888.5. TI

- (3) フサタヌキモ *Utricularia dimorphantha* Makino in Bot. Mag. Tokyo 20: 96 (1906)

〈発見史, 分布とその現状〉

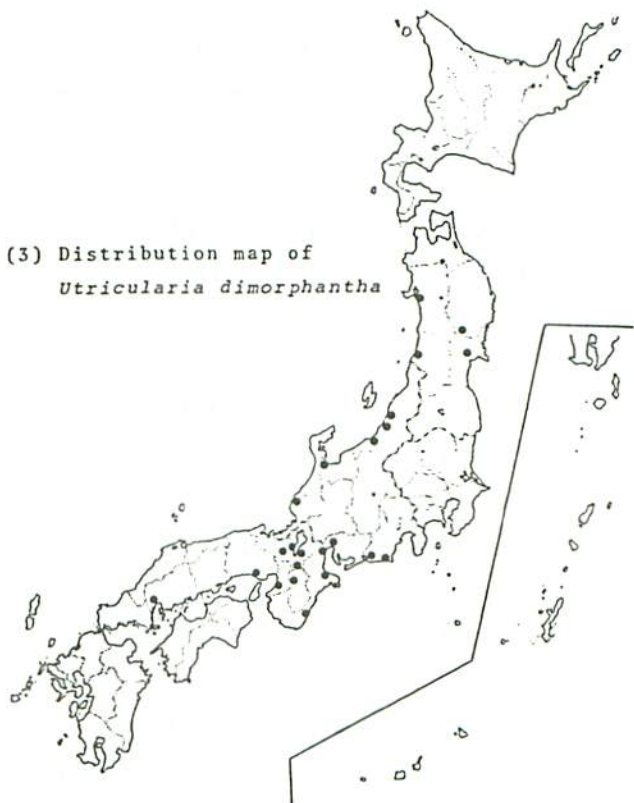
フサタヌキモは日本固有の水草で, 1906年牧野富太郎によって新種として記載された。しかし, 文献上の記録は古く, 飯沼慾斎著「草木図説」(1859)に描画が載せられていたが, 当時はタヌキモとして取扱われていた。牧野が増訂版(1907)で注解をつけた際, フサタヌキモであると訂正した。その前年, 牧野自身によって「植物学雑誌」20巻96頁に新種として公表されたばかりであった。記載に示されたタイプ標本は, 1903年9月12日阿部啓三が新潟県直江津で採集したものと, 栗原九十九が同年10月14日(原記載では4日となっているがミスプリント)西蒲原郡潟東町と翌1904年8月11日白根市で採集した標本であって, いずれも都立大学牧野標本館に保管されている。阿部の標本は水中茎先端部の断片のみであり, 栗原の標本2点は小学校の卒業証書の裏面に貼付されており, 開花中の花茎をつけている。

ところが, 10年も前に採集されたフサタヌキモの標本が現存する。1892年8月8日松田定久が滋賀県大津市三井寺で採集したものが京都大学に, 1893年9月7日長沢利英が山形県鶴岡市で採集したものが国立科学博物館に, そして, 牧野自身が1893年11月6日名古屋市子宝(?)と1896年9月6日大阪府岸和田市三田で採集した標本が牧野標本館に保管されていたが, 後に紛失した。牧野の原記載にこれらが掲げられなかったのが不思議である。

その後, 愛知県西春井郡西枇杷島町(1912), 京都府嵯峨広沢(1925), 深泥池(1926), 秋田市(1928), 静岡県小笠郡小笠町(1930), 広島県佐伯郡大野町(1933), 奈良市西大寺町(1934), 和歌山県新宮市(1934), 福井県(1935), 富山県氷見郡十二町村(1936), 兵庫県明石市(1936), 兵庫県南楽田郡河原林村(1940), 三重県木曽岬(1951), 静岡県浜松市(1965), 磐田市桶ヶ谷(1968), 宮城県加護坊山(1969), 兵庫県加古川市神野町(1984), 三重県伊勢市(1985), 新潟県見附市(1988), 岩手県一関市(1988), 平泉町(1994)というぐあいに, 東北地方から中国地方にかけて広範な地域に点々と出現しては消滅することをくり返してきた。近年は環境破壊と汚濁によって, その出現が著しく減少し, 現存が確認できる自生地は2, 3ヶ所のみとなっている。

〈現存する標本のリスト〉

- 東北：岩手県一関市上達谷——M. Tsuchiya 1988. 8. 17 MAK；平泉町——小宮 1994. 7. 11 NDC-4833, 4834；上野 1994. 8. 27 NDC-4884~4887
- 秋田市千秋公園——村松 1928. 9. 5 TI；土崎町——村松 1932. 8. 18 TI
- 山形県鶴岡市——T. Nagasawa 1893. 9. 7 TNS-306898
- 宮城県加護坊山相野沼——上野 1972. 7. 30 TNS-292994, TUS, 1969. 8. 20 NDC-2109, 2110；小宮 1973. 8. 8 NDC-2705, 2706
- 中部：新潟県豊栄市福島湯——三木 1925. 8. 11 OSA；中蒲原郡大江山村——池上 1952. 9. 18 NDC-2703；西蒲原郡潟東町横戸——栗原 1903. 10. 14 MAK；白根市——栗原 1904. 8. 11 MAK, SAP (伊藤誠哉コレクション)；見附市新潟町——刈屋 1988. 11. 4 KOBE (n. 27821)；刈羽郡西山町——刈屋 1988. 11. 9 KOBE (n. 27833)；柏崎市佐藤池——片桐 1973. 8. 16 NDC-2707, 2708, 1976. 7. 25 NDC-2704；上越市直江津——阿部 1903. 9. 12 MAK
- 富山県氷見郡十二町村——御旅屋 1936. 10. 4 OSA；福井(?)——辻岡 1935. 10. 10 OSA
- 静岡県小笠郡小笠町平田——清水 1930. 8. 22 TI；磐田市桶ヶ谷——小宮 1968. 8. 13 NDC-2102~2108, 1969. 8. 24 NDC-2111~2115；浜松市太田川——小野 1965. 8. 11 NDC-2101
- 愛知県西春日井郡西枇杷島町下小田——牧野



1912.8.7 MAK; 名古屋市子宝(?)——牧野 1893.11.1 MAK; 名古屋市——脇田 1952.5.22. OSA

近畿: 三重県長島町——小宮 1952.8.22 NDC-2092; 木曾岬——井波 1951.10.15 TNS-106801; 小宮 1952.8.22 NDC-2093~2095, 1953.8.23 NDC-2098~2100; 安井 1953.8.23 OSA; 伊勢市外宮勾玉池——小宮 1985.7.27 NDC-3460~3469; 島井 1987.9.6 NDC-3780

滋賀県高島郡上村浜分——橋本 1934.10.14 OSA (n. 2416); 野洲郡中主町兵主神社——橋本 1926.7.14 KYO; 大津市——三木 1925.7.26 OSA, 1927.12.17 NDC-3123; 三井寺——松田 1892.8.8 KYO; 三木 1925.6.12 OSA, 1927.12.17 OSA; 膳所本田池——園 1904.7. TNS-15778; 堅田町——橋本 1937.7.20 TNS-80791

京都府京都市左京区嵯峨広沢——三木 1925.10.13 OSA; 宝ヶ池——三木 1934.9.3 OSA; 深泥池——三木 1926.6.14 OSA, 1926.7.5 OSA, 1932.10.30 OSA; 巨椋池——三木 1929.3.22 OSA; 伏見区日野六地藏——G. Nakai 1942.8.4 KYO (n. 1467); 日野薬師——小宮 1951.9.15 TNS-106807, NDC-2087~2091; 宇治市観月橋——杉山 1952.11. NDC-2096~2097; 久世郡寺田村——三木 1934.10.27 OSA

大阪府岸和田市三田——牧野 1896.9.6 MAK

奈良県奈良市西大寺町——三木 1934.10.27 OSA; 法華寺町水上池——三木 1934.6.26 OSA; 垂仁天皇陵——布藤 1950.11.3 TNS-114846

和歌山県新宮市——高橋 1934.11.13 OSA

兵庫県明石市東江井——石川 1936.11.22 KYO; 加古川市神野町——角野 1984.8.1 KOBE (n. 3542), 1984.9.23 KOBE (n. 3604), 1984.12.8 KOBE (n. 3632), 1985.4.16 KOBE (n. 3639), 1985.4.30 KOBE (n. 3651); 山本 1987.11.20 KOBE; 角野 1988.3.27 KOBE (n. 5338); 南楽田郡河原林村宇津根橋(?)——H. Yamamoto 1940.9.8 TNS-199383

中国: 広島県佐伯郡大野町——牧野 1933. MAK

- (4) イトタキヌキモ (ミカワタヌキモ, ワスレタヌキモ) *Utricularia exoleta* R. Br., Prodr. Nov. Holl. 430 (1810)

U. ambigua DC., Prodr. 8: 9 (1844)

U. amphibia Welw. ex Kam. in Engler, Bot. Jahrb. 33: 112 (1902)

U. biflora Roxb., Fl. Ind. 1: 144 (1820)

E. conferta Hassk. in Nat. Tijdschr. Nederl. Ind. 10: 90 (1855)

- U. diantha* Roxb. ex Roem. et Schult., Mant. 1: 169 (1822)
U. exoleta R. Br. var. *lusitanica* Kam. in Engler, Bot. Jahrb. 33: 112 (1902)
U. gibba L. subsp. *exoleta* (R. Br.) P. Taylor in Mitt. Bot. Staatss. Munch. 4: 101 (1961)
U. gracilis Lepr. ex Oliver in J. Linn. Soc. Bot. 9: 147 (1865)
U. Nagurai Makino in Bot. Mag. Tokyo 27: 59 (1913)
U. saharunporensis Royle ex Oliver in J. Linn. Soc. Bot. 3: 176 (1859)
U. sumatrana Miq., Fl. Ind. Bat. 2: 998 (1859), pro parte

〈発見史〉

Robert Brown 自身が、1802 年 5 月から 7 月の間オーストラリア・ニューサウスウェルズ州ポートジャクソン（シドニー市の北）で採集し、1810 年命名して記載した。1961 年 Peter Taylor は新大陸とアフリカに分布し大形の花を咲かせる *U. gibba* を母種と考えて、subsp. *exoleta* と組替えた。つまり、既にリンネ（1753）が記載していた新大陸（バージニア州）産の *U. gibba* を基本亜種とみなし、同一種とした。後に、彼は（1989）亜種区分もやめて一つの共通種 *U. gibba* としてまとめているが、花冠の大きさのみでなく形状にも差が見られること、生態的にも違う点が認められるため、2 種を独立種として区分するのが自然と考える傾向が強い。

〈日本における分布と発見史、そして現状〉

日本でイトタヌキモを最初に発見したのは名倉間一郎で、1899 年 9 月 25 日愛知県幡豆郡豊坂村須美（現、額田郡幸田町）で採集した標本を牧野のもとへ送った。牧野はそれに基づいて、1913 年 *U. Nagurai*（和名ミカワタヌキモ）と命名し公表した。牧野の原記載には伊勢・神戸南山（現、鈴鹿市、Nakanishiki, Aug. 1901）と尾張・愛知郡鍋屋上野（現、東海市、Kume, Sep. 4, 1911）の産地も加えて示している。ところが、P. Taylor（1989）は *U. Nagurai* のタイプ産地として後 2 地点のみを挙げ、名倉の採品を欠落している。

U. exoleta の学名を日本で最初に適用したのは松村・早田（1906）で、台湾産のイトタヌキモの学名として使った。台湾産のものとしては、1895 年 5 月 12 日田代安定が台北市で採集した最古の標本が東京大学と京都大学に保管されており、*U. diantha* の学名とワスレタヌキモという和名が与えられていた。これらが日本産のミカワタヌキモと共通であるとみなし、*U. exoleta*（和名イトタヌキモ）に統合したのが三木（1935）である。

イトタヌキモは、中部地方の東海地域で古くから多くの自生地が知られていたが、環境の悪化によって現在はほとんど絶滅した。近畿地方でも深泥池や六甲山など多くの自生地

が知られたが、これらもほとんど絶滅した。中国地方では2, 3地点しか知られていないが、九州と沖縄には多産し、現存する自生地も多い。イトタヌキモは冬芽をつくらないため、植物体断片で越冬する。従って、凍結する地域には分布しない。種子の稔りも良いが、まだ種子のみによって越冬する姿は認められていない。また、鹿児島県の蘭牟田池のように開発と自然環境の遷移によって生活の場を失いつつある例も多い。

〈分布〉

ヨーロッパ (ポルトガル)、アフリカ、マダガスカル、インド、インドシナ、中国、日本、マレーシア、ニューギニア、パラオ諸島、オーストラリア (北部～東部)、ニュージーランド、ニューカレドニア

〈現存する標本リスト〉

中部：静岡県湖西市太田——小宮 1964.8.8 NDC-2147

愛知県豊橋市二川町——梅村 1904.9.7 MAK；細谷町上細谷——小宮 1971.7.31 NDC-2183, 2553～2555；岡崎市——市川 1911.7. KYO；岡崎市南部——大原 1952.11.13 AICH；豊田市北西部——芹沢 1989.10.13 AICH (n. 53943)；長久手町——芹沢 1989.9.28 AICH (n. 53641)；額田郡幸田町須美——名倉 1899.9.25 MAK-4723；東海市鍋屋上野——久米 1911.9.4 MAK-4829；豊明市——牧野 1940.10. MAK；井波 1948.5.15 TNS-79827；名古屋市——井波 1934.10.23 NDC-2116～2121, 1958.9. TNS-284053；東山——久米 1911.9.4 TKB-76857；緑区鳴海町——浜島 1968.8.30 TNS-223755；猫ヶ洞池——森 1906.9.2 T1；名大構内湿地——田渕 1949.8.28 TI；知多郡武豊町別曾——小宮 1986.8.17 NDC-3580～3582, 1987.8.16 NDC-3728；市原——磯部 1986.9.7 NDC-3594；美浜町奥田——磯部 1981.8.4 NDC-3593；河合 1988.8.8 NDC-4057；河和道土——河合 1987.9.10 NDC-3781；柴田 1987.9.20 NDC-3782～3784；上野間——河合 1988.10.14 NDC-4058；尾張(?)——S. Kato 1927.8 KYO

近畿：滋賀県栗太郡治田村——橋本 1938.7.19 KYO (n. 5343)

三重県四日市市御池——安井 1950.5.27 KYO, 1950.8.13 OSA；伊藤 1950.10.10 TNS-90926；井波 1951.10.14 TNS-106805；小宮 1952.8.21 NDC-2131, 2132, 1953.8.22 NDC-2133～2135, 1954.10. NDC-2136～2138, 1972.10.14 NDC-2558～2561；鈴鹿市神戸町南山——中錦 1901.8. MAK-4724；金生水——松山 1925.10.12 KYO, 1939.8.3 KYO；高岡山——小林 1904.10. MAK

京都市深泥池——三木 1923.9.25 OSA, 1926.9.10 OSA, 1927.7.20 OSA, 1927.11.29 OSA, 1934.9.15 OSA；小宮 1951.9.15 TNS-106809, NDC-2128～2130；角野

1978.8.18 KOBE (n. 1553); 島井 1987.9.22 NDC-3796; 角野 1978.11.8 NDC-3121, 3122, KOBE (n. 1542); 山本・関野 1990.9.9 KOBE; 巨椋池——三木 1925.10.11 OSA, 1925.11.28 OSA; 石川 1939.10.15 KYO, 1940.9. KYO; 甘南備山——G. Nakai 1950.7.9 KYO (n. 4508)

奈良県西大寺町——T. Saito 1956.7.24 OSA; 磐之媛命陵——瀬戸 1965.9.26 OSA-1748; 小宮 1972.4.5 NDC-2556, 2557

和歌山県有田郡金屋町——瀬戸 1992.10.12 OSA-93724, 93725, 93734

兵庫県神戸市六甲山鴨子ヶ原——石川 1935.9.12 KYO, 1935.9.15 KYO, 1935.11.17 TNS-91666, KYO, 1937.7.22 TI, 1937.11.13 TI; 明石市大久保町——三木 1935.10.28 OSA; 角野 1982.8.24 KOBE (n. 2105), 1982.9.26 KOBE (n. 2236), 1982.11.3 KOBE (n. 2291), 1983.8.8 KOBE (n. 3094); 角野・関野・山本 1986.5.23 KOBE (n. 33); 角野 1990.9.9

KOBE (n. 6904); 加

東郡社町——角野

1981.10.12 KOBE

(n. 1349); 加古川市

平荘湖——関野・山本

1986.8.30 KOBE; 山

本 1987.12.4 KOBE;

多可郡仲町——内藤

1994.7.15 NDC-4839

中国：岡山県井原市——

竹林 1935.8. MAK

広島県東広島市西条町

——島井 1992.9.26

NDC-4496, 1992.9.

27 NDC-4499

九州：福岡県北九州市八

幡西区本城鶴ノ池

——大野 s. d. KOBE

(n. 2624); 福岡市三

ツ沢——小宮 1963.10.

(4) Distribution map of
Utricularia exoleta



6 NDC-2139, 2140; 筑後市羽犬塚町赤坂——中島 1933, 10, 15 TNS-38722, KYO
 佐賀県三養基郡中原村——山下 1965, 10, 1 TI; 佐賀郡大和町——岩村 1990, 10, 20
 KOBE; 佐賀市川久保——倉成 1967, 10, 22 KYO
 長崎県西彼杵郡豊岡村——大場 1911, 8, 15 KYO
 熊本県熊本市秋津町——島田 1958, 9, 20 KYO (n. 12648); 山城 1963, 9, 8 TNS-159448
 宮崎県児湯郡川南町川南湿原——長沢 1949, 9, 21 TNS-102177; 平田 1952, 9, 23 MIYZ
 -7052; s. col. 1973, 10, 11 MIYZ-15935; 荒木 1981, 9, 10 MIYZ-15948, 19063; 南雲
 1992, 10, 17 NDC-4519; 小宮 1993, 11, 9 NDC-4750, 4751; 湯牟田池——南谷 1985, 10,
 10 MIYZ (n. 35191); 新橋溜池——瀬野 1993, 7, 30 NDC-4612; 高鍋町高鍋湿原——南
 谷 1986, 5, 23 MIYZ (n. 35123), 1986, 7, 29 MIYZ (n. 35489, 35490); 瀬野 1993, 7, 30
 NDC-4747; 西都市筑後局の池——南谷 1989, 11, 12 MIYZ (n. 35708); 宮崎郡高岡町
 ——南谷 1989, 9, 17 MIYZ (n. 35827); 清武町黒坂湯池——南谷 1989, 10, 21 MIYZ
 (n. 35420, 35421); 都於町東ヶ迫池——南谷 1985, 11, 4 MIYZ (n. 35227)
 鹿児島県薩摩郡閨牟田池——今村 1927, 9, 2 OSA; 初島・瀬古 1960, 9, 1 KAG-25211;
 小宮 1993, 11, 10 NDC-4767; 鹿児島市下池——初島・佐古 1962, 9, 30 KAG-27338; 日
 置郡田布施町——土井 1927, 9, 21 KYO; 吹上町伊作正丹池——細山田 1934, 10, 17
 OSA; 種子島——大内山 1953, 11, 5 TNS-117722; 大井・岡本 1953, 11, 7 TNS-108361,
 KAG; 初島 1964, 8, 4 KAG-28296; 徳之島——佐古 1961, 12, 18-24 KAG-4025
 沖縄：伊是名島——里見 1971, 4, 2 KAN; 沖縄本島久志村——仲嶺 1956, 7, 28 TI; 石垣
 島川原——古瀬 1973, 7, 8 URO; 西表島千立——伊藤 1936, 5, 18 TI; 天野 1953, 6, 27
 TNS-109090, URO; 中良川上流——伊藤 1936, 5, 21 TI; カンピレ滝——山崎 1971, 6,
 13 TI, 南雲 1984, 9, 22 NDC-3401, 3402; フナウキ——小山他 1973, 3, 22 TNS-
 314389; 与那国島——初島 1954, 10, 26-30 KAG-24431

(5) ヒメタヌキモ *Utricularia minor* L., Sp. Pl. 18 (1753)

シノニム：*U. gibba* Le Conte in Ann. Lyc. N. Y. 1: 76 (1824), non L.

U. macroptera G. Buckn. ex Garcke, Fl. Denutshchl. ed.3, 274 (1849)

U. minor L. var. *multispinosa* Miki in Bot. Mag. Tokyo 48: 337 (1934)

U. multispinosa Miki, Water Phaner. Jap. 109, f. 63 (1937)

U. nepalensis Kitamura in Acta Phytotax. Geobot. 15: 133 (1954)

U. pulchella C. B. Lehm. in Flora 26: 786 (1843)

U. punctata (non Wall. ex DC.) P. Taylor in Dansk Bot. Ark. 23:

531 (1968)

U. rogersiana Lace in Kew Bell. 1915: 405 (1915)

U. sacciformis Benj. in Linnaea 20: 302 (1847)

U. yosezatoi Makino in Sun-Dew 1(5): 1 (1935), nomen nudum

〈発見史〉

昔からヨーロッパで、水生タヌキモに大形の種 (major) と小形の種 (minor) が区別されていた。リンネ (1753) は、小形種について原記載の中で L. Plukenet (1696) の図を引用しており、恐らく、それがヒメタヌキモについて最古の記録になると思われる。しかし現実には、ヨーロッパにはもう 1 種の水生タヌキモ、コタヌキモ *U. intermedia* が存在するが、当時はまだヒメタヌキモとの区別は不可能であった。19 世紀前半のアメリカでも *U. gibba* と混同されていたこともあった。日本でも、20 世紀に入るまでコタヌキモとヒメタヌキモが区別できずに同一種と見なされたり、混同されていた。

〈分布〉

ヨーロッパ、グリーンランド西部、北米 (米国北部～カナダ・アラスカ)、アジア (トルコ、アフガニスタン、インド北部、ネパール、ブータン、チベット、中国北部、シベリア、ビルマ、朝鮮、日本)、ニューギニア (高地)

〈日本における分布と発見史、そして現状〉

1878 年 8 月 1 日矢田部が北海道千歳市で採集したタヌキモが日本で最古の標本であるが、Maximowicz によって *U. intermedia* と同定された。松村編「日本植物名彙」(1884) には、タヌキモ 1 種のみしか収載されていないが、松村編「帝国大学理科大学植物標品目録」(1886) では、タヌキモと *U. intermedia* (和名なし) を記録している。更に、松村編「改正増補植物名彙」(1895) では、*U. minor* (コタヌキモ、ヒメタヌキモ) とラテン名が変更され、両種が同一種であるとみなされた。宮部金吾「北海道泥炭地植物目録」蕙林 17 号 (1895) で初めて、*U. intermedia* (エゾタヌキモ) と *U. minor* (ヒメタヌキモ) を区別したが、この出版物が札幌農学校予科内の学芸会機関紙という極めて限定されたものであったため、広く知られるに至らなかった。そして、牧野 (1914) が「植物学雑誌」28 巻 28 頁で *U. minor* (ヒメタヌキモ) と *U. intermedia* (コタヌキモ) を区別して公表した。その報告の中で、牧野はヒメタヌキモの産地として日光赤沼原を示し、その基準標本として S. Kodama, 1909. 8. 25. (TI) を挙げている。ところが、実は既に 1884 年 8 月桜井半三郎によって日光赤沼で採集された標本が国立科学博物館に保管されており、これが日本でのヒメタヌキモの最古の記録標本ということになる。

次いで、Faurie が 1891 年 9 月 1 日と 1892 年 6 月 28 日に北海道石狩郡樺戸で採集した

標本, 及び 1892 年 10 月 24 日網走で採集した標本が京都大学に保管されている。北海道大学農学部にも, 1892 年 6 月 1 日徳淵永次郎が岩見沢市幌向で, また, 田代安定が同年 8 月江別市で採集した標本が収蔵されている。ようやく, 松村編「改訂植物名彙和名之部」第 9 版 (1919) で, コタヌキモとヒメタヌキモが別種として区別されるようになった。

初めは北日本での採集が相次いだ, 1899 年 8 月牧野が愛知県豊橋市高師原で採集した記録をきっかけに, 次々と九州北部に至るまでの各地にヒメタヌキモの野生が知られるようになり, 現在でも, まだ多くの自生地が確認できる。

〈現存する標本リスト〉

北海道: (宗谷) 豊富町上サロベツ——吉田 1953. 7. 25 SAP; 勝俣 1993. 6. 13 NDC-4562 (留萌) 幌延町下サロベツ——勝俣 1988. 7. 17 NDC-4030, 4031; 幌延町曙——勝俣 1994. 8. 30 NDC-4945, 4946, 4948

(網走) 網走市——Faurie 1892. 10. 24 KYO (n. 8625)

(根室) 根室市納沙布——Sugaya & Toda 1957. 7. 10 TUS-5921~5923, 野付郡別海町茨散湿原——滝田 1992. 6. 22 (個人所有) (n. 5332)

(釧路) 霧多布湿原——小宮 1992. 8. 25 NDC-4446; 釧路湿原温根内——滝田 1981. 8. 17 KUSI (n. 827); 1984. 8. 6 KUSI (n. 2057); 小宮 1985. 8. 13 NDC-3482~3484, 1992. 8. 24 NDC-4429, 4437, 4438; 角野他 1991. 8. 8 KOBE (n. 26); 弟子屈町美留和——松本 1966. KUSI-819-1

(空知) 雨竜沼——外山 1987. 8. 19 NDC-3741~3745; 浦臼町——Faurie 1891. 9. 1 KYO (n. 7551), 1892. 6. 28 KYO (n. 8090); 岩見沢市幌向——徳淵 1892. 6. 1 SAP, Kudo 1918. 6. 9 TAI-4750

(石狩) 新條津村——Kudo & Yoshii 1919. 8. 15 TAI-8027; 外山 1985. 6. 15 NDC-3439, 1985. 8. 4 NDC-3451, 1987. 7. 8 NDC-3458; 1985. 9. 29 NDC-3507~3509; 江別市対雁——宮部 1895. 7. 22 SAP; Kudo 1918. 9. 22 TAI-4366

(胆振) 厚真町奥井沼——外山 1986. 5. 23 NDC-3540~3545; 小宮 1987. 7. 19 NDC-3671~3673; 平木沼——外山 1986. 5. 23 NDC-3554~3555; 松の沼——外山 1988. 6. 6 NDC-3890~3894; 小宮 1989. 9. 23 NDC-4195; 長沼橋脇——外山 1988. 5. 15 NDC-3827~3837; 小宮 1988. 6. 26 NDC-3954, 1992. 8. 28 NDC-4459; 竜神沼——小宮 1989. 9. 23 NDC-4185~4188; 共和——外山 1988. 5. 29 NDC-3864~3869; 小宮 1989. 9. 23 NDC-4185~4188; 苫小牧市東インター大橋——外山 1987. 7. 29 NDC-3724~3726; 小宮 1988. 6. 26 NDC-3955; ウトナイ湖北東岸——外山 1991. 7. 29 NDC-4316; 柏原東湿原——外山 1986. 6. 22 NDC-3692~3695, 1986. 9. 6 NDC-3569~3572; 小宮 1987. 7. 19

NDC-3663~3667, 1988.6.26 NDC-3941~3946, 1989.9.23 NDC-4164, 4165, 1992.8.28 NDC-4473; 弁天沼——外山 1986.9.21 NDC-3573~3575, 1987.7.12 NDC-3701~3703; 小宮 1987.7.19 NDC-3668~3670, 1988.6.26 NDC-3947~3953, 1990.8.19 NDC-4234, 1992.8.28 NDC-4460; 外山 1993.5.16 NDC-4521; 小宮 1994.8.28 NDC-4904~4906; 海岸沼——外山 1988.5.29 NDC-3850~3853; 美々湿原——外山 1993.8.7 NDC-4585~4604; 森田沼——外山 1988.6.12 NDC-3905~3907; 市章沼 (Makka-numa)——外山 1988.6.12 NDC-3908~3915; 角野 1987.8.18 KOBE (n. 6164); 白老町ヨコスト湿原——小宮 1985.8.11 NDC-3479, 3480

(渡島) 静狩湿原——館脇 1951.8.27 SAP (n. 42244); 小宮 1985.8.11 NDC-3476, 3477; 外山 1986.8.15 NDC-3568; 小宮 1989.9.24 NDC-4200, 4201, 1994.8.29 NDC-4910; 森町婆々沼——三木 1925.8.9 OSA; 大沼——山崎 1956.7.10 TI; 函館市柏野——I. Yamamoto 1922.9.14 TAI (n. 142)

東北: 青森県西津軽郡平滝沼——小宮 1991.7.17 NDC-4302~4304, 1994.8.30 NDC-4936; 青森市三内——大島・南雲 1978.8.21 NDC-3160~3164; 下北郡東通村タテ沼——大島・南雲 1978.8.19 NDC-3167; 左京沼——大島・南雲 1978.8.20 NDC-3157~3159

岩手県岩手郡柳沢——Y. Fukuda 1935.7.5 KYO (n. 712)

秋田県大館市芝谷地湿原——角野 1989.8.22 KOBE (n. 6271); R. Fujiwara 1990.9.24 KOBE (n. 403402-24); 秋田市女湯——上野 1971.8.18 NDC-2581; 四ツ小屋——高田 1982.7.26 NDC-3346

山形県寒河江市平野山麓——加藤 1989.7.18 KOBE; 山形市琵琶沼——加藤 1989.7.30 KOBE; 南陽市赤湯谷地——三木 1927.10.16 OSA

宮城県伊具郡丸森町旗巻峠——上野・森 1987.6.13 NDC-4213; 森 1987.6.13 KOBE (n. 3321)

福島県耶麻郡北塩原村深泥沼——角野 1986.8.2 KOBE (n. 3822), 1986.8.3 KOBE (n. 3834); 磐梯高原——増田 1964.8.4 MAK-65137; 中村 1991.9.17 KOBE (n. 576); 赤井谷地——池上 1953.8.26 NDC-2580; 小宮 1971.10.2 NDC-2583~2585; T. Saito s. d. SAPT (B.G.)-20090; 戸の口——s. col. 1913.8.26 TNS-34164, 34165, 80372; 小宮 1975.8.30 NDC-2619, 1977.6.24 NDC-3155, 3156, 1980.7.21 NDC-3177; 薄葉 1980.7.19 NDC-3174; 服部 s. d. MAK; 南会津郡田島町シギ沼——薄葉 1979.7.15 NDC-3175; 郡山市三穂田町鍋山——薄葉 1978.8.20 NDC-3165; 相馬郡飯館村飯樋——薄葉 1976.7.19 NDC-3154; 双葉郡檜葉町——薄葉 1973.5.27

- NDC-2618; 白河市湖南町中野——薄葉 1978. 7. 17 NDC-3166; 西白河郡表郷村三森池——今井 1935. 9. 15 TNS-50902; 深渡戸——小宮 1975. 8. 30 NDC-2593~2595
- 関東: 栃木県日光——甲斐 1926. 7. TI; 戦場ヶ原——Y. Komori 1930. 7. 1 TI (n. 283); 伊藤 1931. TI, 1933. 7. 4 TI; 斉藤 1950. 7. 30 NDC-2180; 山崎 1952. 7. TI; 水島 1956. 9. 18 MAK-4727; 赤沼——桜井 1884. 8. TNS-11153; s. col. 1904. 7. MAK; 青樹 1909. 7. 7 TBK-76848; S. Kodama 1909. 8. 25 TI; T. Nakai 1919. 6. TI; 下都賀郡壬生町天神沼——小川 1956. 9. 14 TNS-132863, TOCH-52620; 南那須町鴻野山——八板・小峯 1991. 6. 16 TOCH-57863; 河内郡姿川村鶴田沼——小川 1950. 7. 25 TOCH-52619
- 群馬県尾瀬沼尻平——小宮 1950. 8. 27 NDC-2181; 尾瀬が原——小宮 1950. 8. 28 NDC-2184, 2185; Nakajima 1965. 8. 8 OSA-13422; 野反湖——原 1952. 7. 27 TI; 原・黒沢 1952. 7. 27 TI; 久内 1952. 7. 27 NDC-2187; 久内・原 1952. 7. 27 TNS-114595; 館林市多々良沼——三木 1926. 7. 12 OSA; 小宮 1949. 9. 18 NDC-2177, 2178
- 茨城県稲敷郡大須賀村——s. col. 1929. 6. 23 KYO
- 千葉県手賀沼——三木 1926. 7. 14 OSA; 銚子市——小宮 1950. 10. 29 NDC-2186; 成東町——若名 1951. 6. 28 TNS-139101; 長生郡高根村——s. col. 1935. 11. 24 TNS-52287; 八積町——奥山 1936. 5. 24 TNS-52286, 1936. 10. 11 TNS-100703, 280127; 千葉市——s. col. 1905. MAK; 千葉寺——斎藤 1949. NDC-2179
- 東京都練馬区石神井三宝寺——佐藤 1924. 10. TNS-37707; s. col. 1929. 5. 26 TKB-76849; 牧野 1934. 10. MAK; 和田山(?)——久内 1925. 8. 23 OSA
- 中部: 新潟県北蒲原郡聖籠村蓮野——池上 1952. 10. 4 NDC-2579; 水原町大日ヶ原——片桐 1975. 8. 25 NDC-2592; 柴田 1976. 9. 5 NDC-2616, 2617; 小宮 1976. 9. 6 NDC-2621; 東蒲原郡上川村広瀬——片桐 1974. 8. 23 NDC-2591; 栃堀——柴田 1975. 9. 6 NDC-2596~2604; 片桐 1975. 9. 6 NDC-2605; 小宮 1976. 9. 4 NDC-2608~2615; 中蒲原郡村松町早出峽——小宮 1976. 9. 6 NDC-2622~2629; 小千谷市郡殿の池——小宮 1992. 10. 24 NDC-4513~4515, 1993. 6. 1 NDC-4545, 4546; 北魚沼郡広神村——岩田 1915. 9. 8 MAK (n. 82); 中頸城郡旭村鶴の池——三木 1925. 7. 14 OSA; 妙高高原町笹ヶ峰カンバ沢——片桐 1976. 7. 25 NDC-2606, 2607
- 長野県上水内郡信濃町種子池——小宮 1984. 8. 4 NDC-3380, 3381; 角野 1984. 8. 5 KOBE (n. 3440); 戸隠山中社の原——高橋 1904. 8. MAK; 長野市飯岡の原(?) s. col. 1904. 8. MAK; 大町市居谷里湿原——伊藤 1959. 8. 5 TKB-76850
- 石川県羽咋市寺家——S. Yamamori 1964. 10. 17 KAN-51987

岐阜県端浪市細久手町弁天池——山田 1981.5. NDC-3178；小宮 1981.9.27 NDC-3179~3181；瑞浪市——芹沢 1990.10.10 AICH (n. 57720)

愛知県豊橋市高師——牧野 1899.8. MAK

近畿：滋賀県伊香郡高月町布施池——橋本 1938.6.12 TNS-80790；西浅井町沓掛——S. Watanabe 1964.8.8 KAN-66145；八日市市市辺町布施——橋本 1938.6.12 OSA (n. 5250), 1942.10.4 TI (n. 10211)；尻無町——角野 1988.10.15 KOBE (n. 5768)

三重県四日市市御池——安井 1950.7.8 TI (n. 3), 1950.9.9 TNS-90927, 1950.9.23 OSA, 1950.10.6 TI；井波 1951.10.14 TNS-106802；小宮 1952.8.21 NDC-2188；伊賀上野市——藪本 1971.9. NDC-2682

京都府京都市深泥池——三木 1923.9.22 OSA, 1935.8.20 OSA；巨椋池——三木 1925.11.10 OSA, 1925.11.28 OSA, 1926.5.1 OSA；Yonezawa 1928.8.6 KYO；田代 1929.7.21 KYO；北谷 1929.

7.21 OSA-7972；北村

1929.11.5 KYO；竹

内 1930.8.18 KYO

大阪府四條畷市室池

——瀬戸 1957.9.15

OSA (n. 6992), 1959.

9.17 OSA (n. 9142)；

生駒山——小宮 1974.

8.2 NDC-2586~2590；

岸和田市牛滝——浜谷

1968.7. OSA

兵庫県宝塚市境野——

角野 1986.10.20

KOBE (n. 4228,

4263)；山本 1987.6.7

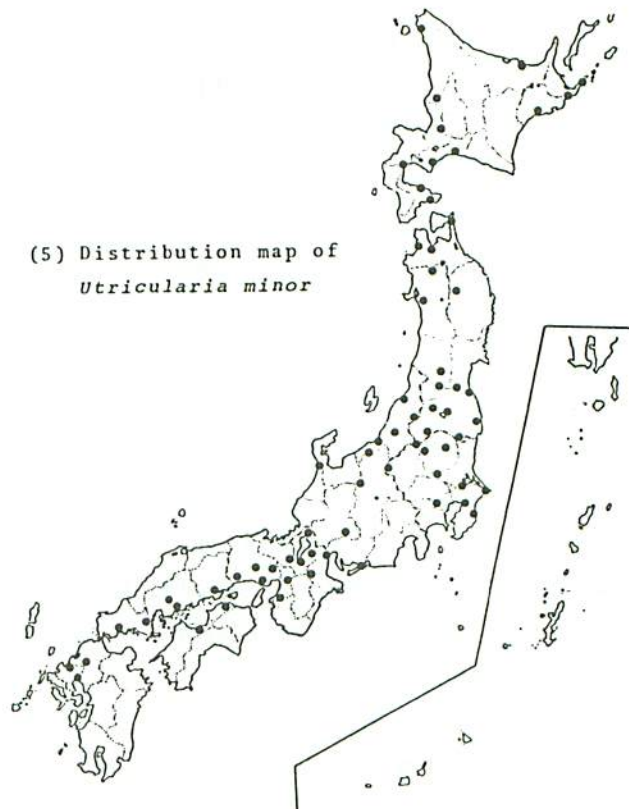
KOBE, 1987.9.28

KOBE；西宮市甲山希

望の森——柴田 1985.

9. NDC-3603.

3604；神戸市六甲山イ



モリ池——田渕 1980, 7. NDC-3176；加東郡社町——山本 1988, 9, 27 KOBE；多加郡中町——角野 1983, 10, 25 KOBE (n. 3206)；八千代町——山本 1987, 10, 1 KOBE；小野市榑町——角野他 1986, 6, 2 KOBE (n. 46)；角野・山本 1986, 8, 22 KOBE；三木市大村町——北村 1984, 9, 5 NDC-3390；美囊郡吉川町法光寺——山本 1987, 9, 11 KOBE；明石郡大久保町——三木 1935, 10, 28 OSA；竜野市揖西町竹原——栗原 1989, 10, 30 OSA-89060, KOBE (n. 433)；揖保郡揖保川町近藤池——角野 1984, 9, 29 KOBE (n. 3518)

中国：岡山県赤磐郡赤坂町多賀——小宮 1976, 8, 21 NDC-2632；邑久郡片窓町前島——小畠 1985, 6, 26 NDC-3453；岡山市日応寺——小畠 1975, 9, 7 NDC-2631, 1985, 8, 17 KOBE；角野 1982, 8, 8 KOBE (n. 2097)；吉備郡高松町平山——二階 1903, 8, 17 TNS-46388, TI (n. 1177)

広島県世羅郡三和町上山——佐藤 1931, 8, KYO；世羅西町黒川——島井 1992, 9, 27 NDC-4500；賀茂郡大和町蔵宗——山本・関野 1987, 8, 3 KOBE；河内町——島井 1983, 6, 13 NDC-3347；東広島市八本松町——角野 1977, 11, 7 KOBE (n. 360), 1978, 6, 26 KOBE (n. 1860), 1978, 10, 11 KOBE (n. 1906), 1984, 8, 16 KOBE (n. 3413)；山本・関野 1987, 8, 3 KOBE；西条町広大内——角野 1984, 8, 16 KOBE (n. 3398)；広大近く——山本・関野 1987, 8, 2 KOBE；西条町下見湯池——山本・関野 1987, 8, 2 KOBE；西条町戸坂——山本・関野 1987, 8, 3 KOBE；西条町出ヶ原姫が池——山本・関野 1987, 8, 3 KOBE；豊田郡川尻町野呂山——角野 1978, 10, 12 KOBE (n. 1544)

山口県玖珂郡周東町——真崎 1970, 7, 4 TNS-272502；山口市長沢の池——真崎 1969, 7, 20 TNS-251458, 255480；宇部市割坂——瀬野 1993, 7, 27 NDC-4609

四国：香川県木田郡三木町——U. Miki 1934, 10, 5 OSA；仲多度郡満濃町逆様池——氏家 1989, 10, 15 KOBE (久米-1192)

愛媛県新居浜市沢津——山本 1941, 10, 17 KYO

九州：福岡県福岡市三ツ沢——石津 1962, 10, 21 NDC-2189

佐賀県佐賀郡富士町大串——岩村 1990, 10, 17 KOBE；杵島郡北方町杉の岳——T. Baba 1958, KAG；東松浦郡七山村檜原——江島 1989, 3, 23 KOBE；岩村 1990, 10, 17 KOBE

(6) ヤチコタヌキモ *Utricularia ochroleuca* R. Hartman in Bot. Notiser 1857: 30 (1857)

シノニム：*U. brevicornis* Čelak. in Oesterr. Bot. Zeitschr. 36: 253 (1886)

U. dubia ochroleuca E. H. L. Krause in Sturm, Fl. Deutschl., ed. 2, 10 : 223 (1903)

U. intermedia Hayne f. *ochroleuca* (R. Hartm.) Komiya, Syst. Stud. Lentibulariaceae 76 (1972)

U. intermedia Hayne \times *U. minor* L. -L. M. Neuman in Bot. Notiser 1900 : 65-66 (1900)

U. occidentalis A. Gray in Proc. Amer. Acad. 19 : 95 (1883)

〈発見史〉

1857年 R. Hartman がスウェーデン産タヌキモ類の一新種として命名記載したが、その後30年ほど認知されずに経過した。ようやく1886年 Ascherson がドイツ北部にも分布することを明らかにして以来、ヨーロッパ各地やグリーンランドにも分布することが知られるようになった。Glück (1902, 1913, 1936), Hegi (1914) らが精細な再検討をして独立種として取扱われるようになったが、現今でも、コタヌキモ *U. intermedia* と混同されることが多い。

北米では、1880年に米国ワシントン州ファルコンバレーで Suksdorf によって発見されたものが、1884年 Asa Gray によって固有新種とみなされて *U. occidentalis* と命名記載された。Rossbach (1939) は *U. ochroleuca* と *U. occidentalis* を別々の種とみなし、後者はコタヌキモとヒメタヌキモとの交配種ではないかと考えた。その後、ヒメタヌキモのシノニムとして扱われたり (Cronquist 1959), コタヌキモと混同されてきた。Abrams (1960) はヒメタヌキモに近いが冬芽葉裂片に縁毛が多生することで別種として扱ったが、1973年 Ceska と Bell によってヨーロッパ種のヤチコタヌキモと同種とみなされ、そのシノニムとして制理された。

Neuman (1900), Boivin (1966), Bocher et al. (1968) らは、ヤチコタヌキモが交配種ではないかと考え、P. Taylor (1972) も「Flora Europaea」3巻297頁でコタヌキモの変異種か、多分コタヌキモとヒメタヌキモの交配種ではないかと記している (The Genus *Utricularia* (1989) では独立種として扱っている)。小宮 (1972, 1980) はコタヌキモの1品種 (*U. intermedia* f. *ochroleuca*) として扱い、*U. occidentalis* をそのシノニムとして処理した。

〈分布〉

ヨーロッパ (西部～北部), 北米 (北西部～北東部), アジア (アフガニスタン, 日本, 千島)

〈日本における分布と発見史, そして現状〉

NDC-3423；中の沼——外山 1985. 6. 16 NDC-3438

(石狩) 岩見沢市幌向——三木 1925. 8. 17 OSA；新條津湿原——小宮 1985. 6. 8 NDC-3425；江別市東野幌——小宮 1985. 6. 9 NDC-3434

(胆振) 厚真町奥井沼——外山 1986. 5. 23 NDC-3534~3539；室蘭市塵別——H. Iwamoto 1934. 7. 27 OSA (n. 1236)

(後志) 黒松内町——桑原 1953. 7. 4 TNS-108736

東北：青森県八甲田山——村井 1933. 7. 8 OSA, 1933. 7. 17 OSA；谷地湿原——Sugaya 1956. 7. 7 TUS-5917；Sugaya et al. 1960. 7. 1 TUS-5916, 1960. 7. 2 TUS-5915；Ohashi 1963. 7. 17 TI；小宮 1991. 7. 17 NDC-4307~4310；睡蓮沼——Takano 1957. 7. 20 KAN-25975

関東：群馬県尾瀬沼——R. Endo 1910. 8. 9 TUS-5920；水島 1950. 7. 14 TI；尾瀬ヶ原——伊藤(?) 1910. TKB-76852；山本 1928. 9. 26 OSA；原 1929. 7. 16 TI；鈴木 1931. 8. 12 KYO (n. 64)；星 1931. 8. 13 KYO；T. Saito 1931. 8. SAPT (B. G.)；星 1932. 7. 3 KYO, 1932. 8. TNS-100702；三木 1933. 7. 8 OSA；奥山 1934. 7. 22 TNS-44877；三木 1935. 7. 6 OSA；大井・田川 1935. 8. 5 KYO (n. 8997)；星 1935. 8. TNS-100699, 1937. 8. TNS-100696；小宮 1948. 9. NDC-2198, 2199；K. Imahori 1949. 7. 8 KAN-7328；川崎 1949. 8. 5 TI；水島 1950. 8. 26 TI；小宮 1950. 8. 27 NDC-2200, 2201, 1950. 8. 28 NDC-2202, 1950. 8. 29 NDC-2203；水島 1951. 7. 6 TI；小宮 1951. 7. 24 NDC-2204, 1951. 7. 26 NDC-2205, 1953. 7. 14 NDC-2217~2225, OSA, 1953. 7. 15 NDC-2216, 1955. 6. 12 NDC-2227；戸倉~富士見峠——水島 1950. 8. 24 TI (n. 406)
栃木県鹿沼市古峯ヶ原峠頂上——小川 1932. 6. 19 TOCH-52618；古峯ヶ原湿原——Sugaya 1933. 8. 25 TUS-5919

中部：長野県霧ヶ峯——三木 1927. 8. 14 OSA；牧野 1936. 8 MAK；小宮 1950. 7. NDC-2208~2215, 1951. 8. 5 NDC-2206, 2207, 1953. 7. 19 NDC-2226；安井 1955. 7. 30 OSA

(7) ムラサキミミカキグサ *Utricularia uliginosa* Vahl, Enum. 1: 203 (1804)

シノニム：*U. affinis* Wight in Hook., Kew J. 1: 373 (1849)

U. affinis Wight var. *griffithii* (Wight) Oliv. in J. Linn. Soc. Bot. 3: 179 (1859)

U. brachypoda Wight in Hook., Kew J. 1: 373 (1849)

U. caerulea L., sensu Benth., Fl. Hongk. 256 (1861)

U. capillaris Don, sensu Matsum., Nomen. 196, n. 2264 (1884)

U. cyanea R. Br., Prodr. Nov. Holl. 431 (1810)

U. decipiens Dalz. in Hook., Kew J. 3: 279 (1851)

U. griffithii Wight in Hook., Kew J. 1: 373 (1849)

U. intricata Griff. ex Oliv. in J. Linn. Soc. Bot. 3: 179 (1859)

U. lilacina Griff., Notulae 4: 168 (1854)

U. macrophylla Masamune & Syozi in Trans. Nat. Hist. Soc. Taiwan 34: 305 (1944)

U. nayarii Janarthanam & Henry in Bull. Bot. Surv. India 28: 195 (1988)

U. yakusimensis Masamune in Fl. Geo. Yakusima 409 (1934) and in Mem. Fac. Sci. Agr. Taihoku Imp. Univ. 9: 409 (1934)

〈発見史〉

19世紀初頭、Koenigがマレー半島で採集した標本に基づき、1804年Vahlが命名記載した。1810年オーストラリアにも分布することがBrownによって明らかにされて以来(*U. cyanea*と命名したもの)、南アジアから東アジア一帯に広く分布することが知られるようになった。しかし、いずれも各地で別の学名が付けられて発表されることが屢々であった。とりわけ、*U. affinis*の学名がHooker(1849)によって使用され広く普及した。Gamble(1924)が「Flora of Madras」2巻981頁で*U. uliginosa*を採用しても、殆どVahlの記述が省みられることがなく、*U. affinis*が通用されてきた。そして再びP. Taylor(1968)の呼び掛けで、オーストラリア産のものも(Erickson 1968)、日本産のものも(小宮1980)*U. uliginosa*に統一されるようになった。

〈分布〉

インド、スリランカ、ビルマ、タイ、中国(南部)、朝鮮、日本、マレーシア、インドネシア、ニューギニア、パラオ諸島、グアム島、ニューカレドニア、オーストラリア

〈日本における分布と発見史、そして現状〉

現存するムラサキミミカキグサの最古の標本は、1880年7月30日青森県国吉村(現、弘前市)で採集されたもので東京大学に保管されている。採集者名の明記はないが、松村編「帝国大学理科大学植物標品目録」(1886)に収載されていることから、矢田部、松村、または他の教室員による採品と考えられる。松村「日本植物名彙」(1884)にも、*U. capillaris*の学名でムラサキミミカキグサが載っている。宮部「北海道植物志」(開拓使版「北海道志24」34巻物産に所収)にもラテン名はないが、“ムラサキミミカキグサ幌内辺谷地ニ生ス”とのみ書かれている。幌内とは、現在の長万部町静狩湿原で、宮部によって発見されたものと思われる(標本の所在は不明)。

1884年7月11日矢田部と松村によって戸隠山でも採集された。そして、1887年9月18日松田と根本が福島市信夫山で、1888年7月30日牧野が高知市五台山で、同年10月30日にはFaurieが札幌市郊外で、という具合に日本各地に広く分布することが知られるようになった。

松村「改正増補植物名彙」(1895)では、ムラサキミミカキグサの学名が *U. affinis* に変更され、以後日本でもこの学名が普及した。ところが、正宗(1934)が屋久島産のもの(矮生型)に基づき *U. yakusimensis* なる学名をつけて日本固有種とみなし、原(1941)がそれに同意して日本産のものすべてにこの学名を当てて以来、現在でも *U. yakusimensis* の学名が通用している。更に奇異なことに、正宗他(1944)は台湾産のものについて *U. macrophylla* なる新しい学名をつけて台湾固有種とした。小宮(1980)が、GambleやP. Taylorの考えを受け入れて *U. uliginosa* の学名を採用し、日本産種も台湾産種もすべて東南アジア産のものと同種であることを明確にした。

ムラサキミミカキグサのみならず陸生のミミカキグサ類は元来熱帯から暖帯にかけて野生する多年草である。日本でも本州以南の各地に複数種のミミカキグサ類が分布するが、寒冷な北海道の一部の地域にもムラサキミミカキグサのみが1年草の生活リズムに変えることで野生している。1888年Faurieが札幌で最初に採集して以来、1890年川上が樺戸郡浦臼で、1891年田代が江別市で、1896年佐々が江別市対雁で、そして、1918年工藤も対雁で採集した標本が残されている。しかし、それ以来半世紀近い空白が続き、ようやく、1951年館脇によって静狩湿原で再発見されたが、その後30年余り各地での野生が再確認できず、既に北海道のムラサキミミカキグサは絶滅したものと思われていた(Komiya & Shibata 1980)。ところが、1982年滝田によって釧路湿原にムラサキミミカキグサが野生することが確かめられた。これが切掛けとなり、1983年外山によって新條津湿原で、1984年には静狩湿原にも現存することが確認された。更に、外山は1985年に江別市東野幌と月形町月ヶ湖、1986年には勇払原野にもムラサキミミカキグサが野生することを見出した。いずれも群生して現存する。

〈現存する標本リスト〉

北海道：(釧路) 釧路湿原——滝田 1982.8.17 KUSI-1360, 1982.9.18 KUSI-1457, 1984.8.20 Takita-2138；小宮 1985.8.13 NDC-4381, 1992.8.24 NDC-4427, 4428, 4432
(空知) 樺戸郡浦臼町——川上 1890. SAP；月形町月の湖湿原——外山 1985.6.16 NDC-3452；小宮 1985.8.14 NDC-3502
(石狩) 新條津湿原——小宮 1985.8.14 NDC-3493；江別市——田代 1891.8. SAP, TI；対雁——佐々 1896.10. SAP；工藤 1918.9.22 TAI-4366 b；札幌——Faurie 1888.

10.30 KYO (n. 3063)

(胆振) 苫小牧市柏市東湿原——外山 1986.9.6 NDC-3576, 3577 (白花), 3578 (白花); 小宮 1987.7.19 NDC-3687, 1987.9.23. NDC-4166~4169, 4170 (白花), 1990.8.19 NDC-4225, 4226, 1992.8.28 NDC-4464~4469, 4470 (白花), 1994.8.24 NDC-4896~4898, 4899 (白花); 弁天沼——外山 1986.9.21 NDC-3579, 1991.8.2 NDC-4329, 4330 (白花); 小宮 1987.7.19 NDC-3688, 1990.8.19 NDC-4229, 4230

(後志) 静狩湿原——館脇 1951.8.27 SAP (n. 42241), 1951.8.30 SAP (n. 42242); 小宮 1985.8.11 NDC-3474, 3475, 1989.9.24 NDC-4202~4204, 1994.8.29 NDC-4912~4914, 4915 (白花)

東北: 青森県弘前市国吉——松村 1880.7.30 TI; 五所川原市松島——成田 1948.9. TI; 木造町平滝沼——小宮 1991.7.17 NDC-4306, 1994.8.30 NDC-4935; 八甲田山——村井 1933.7.31 OSA; 八甲田山谷地湿原——小宮 1991.7.17 NDC-4311~4314; 八戸市上長苗代村根岸——山崎 1901.9 MAK

岩手県紫波郡矢巾町南昌山——鳥羽 1933.10.15 OSA; 一関市霜后ノ湿地——牧野 1899.9.13 MAK

秋田県秋田市旭川町——村松 1928.9.26 TI; 岩館海岸——黒沢 1959.7.30 TI

山形県奈平山——Koidzumi 1914.10. TI; 南陽市白竜湖——結城 1939.8.15 TNS-137503; 土居 1965.8.30 TNS-181222

宮城県栗駒山——三木 1927.10.8 OSA; 宮城郡利府町赤沼——萱場 1905.8. TUS-5897 (白花); 遠田郡涌谷町加護坊山——上野 1966.10.5 NDC-2046; 加美郡色麻町王城寺原——Sugaya et Kimura TUS-5894; 仙台市——安田 1900.10.1 KYO; Endo 1914.9.27 TUS-5899; 太白山——Sugaya 1951.8.12 TUS-5898; Fujita et Nakagawa 1955.9.3 TUS-5895; 台ノ原——小倉 1913.7.18 TI; 東照宮側——山崎 1901.8. MAK-3281; Yohei-numa —— Sugaya et Ogura 1951.8.30 TUS-5896; 名取市——市村 1899.10.8 KAN-3531; 柴田郡川崎町音無——上野 1966.8.20 TUS (白花) 福島県福島市信夫山——松田 1887.9.18 KYO, 1890.9.27 KYO; 根本 1887.9.18 TNS-23481; 斎藤 1928.9.16 SAPT (B. G.)-20081; いわき市三和町差塩——小宮 1981.9.13 NDC-3310~3314; 白河市南湖——里見 1950.10.15 KAN-10225; 西白河郡西郷村野地中——小宮 1977.9.23 NDC-3092~3096; 段戸原——小宮 1988.9.18 NDC-4039 (白花), 4040~4042; 矢吹町長ノ峰——池上 1954. (個人所有) (n. 27872); 表郷村金山——鈴木 1906.8.5 MAK; 深渡戸——小宮 1975.8.30 NDC-2435~2437; 会津若松市赤井谷地——斎藤 1926.8.30 SAPT (B. G.)-20083; 岡本 1938.8.28 KYO; 山崎

1962. 8. 11 TI; 池上 1963. (n. 58002) (白花); 戸口原——三木 1927. 10. 17 OSA
関東: 群馬県尾瀬ヶ原——星 1932. 9. 15 TNS-100701; 小宮 1950. 8. 28 NDC-2038; 利根
郡三峰山——牧野 1905. 10. 17 MAK; 大峰山大沼——内海 1952. TNS-106058, 1954.
8. 30 TNS-113178, 1958. 9. 11 TNS-284241; 吾妻郡高山村——増田 1964. 9. 6 TNS-
160637
栃木県那須野——桜井 1905. 8. TNS-11146; 村田 1963. 8. 10 KYO (n. 18382); 北村
1972. 9. 2 KYO; 那須町富岡上石住——小倉 1987. 8. 11 TOCH-35292; 南那須町鴻野山
東郷——八板 1989. 9. 11 TOCH-57864, 57865; 宇都宮市多気山——中村 1931. 9. 24
TNS-90929; 上三川町——佐藤 1964. 9. 18 TNS-250680; 磯川湿原——古瀬 1959. 8. 17
KAG
茨城県筑波山酒寄——小宮 1980. 9. 28 NDC-3309, 1989. 9. 10 NDC-4155
千葉県銚子市屏風浦——小宮 1950. 10. 30 NDC-2039, 1951. 9. 20 NDC-2040; 関谷
1951. 10. 8 NDC-2041; 海上町蛇園——小宮 1991. 10. 26 NDC-4390, 4391~4393 (白
花), 4403, 4404 (白花), 1992. 9. 15 NDC-4491~4493 (白花); 成東町——志方 1935.
NDC-2037 (白花); 小宮 1992. 9. 15 NDC-4487, 4488 (白花); 茂原市——小幡 1969. 8.
27 TKB-76856; 野田市——牧野 1904. 9. 12 MAK
東京都多摩市岩根入池——長谷川 1964. 8. 18 TNS-214865
神奈川県箱根仙石原——小宮 1994. 8. 9 NDC-4842
中部: 新潟県岩船郡朝日村中原——工藤 1955. Ikegami-29143 (白花); 荒川町中野——
池上 1952. (個人所有) (n. 21913) (白花); 北蒲原郡豊浦町本田山——片桐 1972. 8. 5
NDC-2419; 小宮 1974. 11. 2 NDC-2473~2475; 月岡町——小宮 1974. 11. 2 NDC-
3291; 水原町大日ヶ原——柴田 1975. 9. 6 NDC-2443, 小宮 1976. 9. 5 NDC-
2449~2451; 笹神村島尾ヶ峰——柴田 1975. 9. 5 NDC-2438~2440; 新発田市五十公野
榊形池——柴田 1975. 9. 6 NDC-2444~2448; 東蒲原郡上川上栃堀——柴田 1975. 9. 6
NDC-2441, 2442; 小宮 1976. 9. 5 NDC-2452; 中蒲原郡村松町大堤——小宮 1979. 8. 18
NDC-3298~3302; 柴田 1979. 8. 18 NDC-3120 (白花); 阿弥佗瀬——片桐 1979.
Ikegami; 見附市杉沢町——片桐 1975. 8. 4 NDC-2431, Ikegami (白花); 長岡市悠久
山——中村 1911. 9. 24 TNS-90933; 三島郡深才——中村 1910. 10. 2 TNS-90928; 小千
谷市片貝町越路原——片桐 1974. 8. 10 NDC-2432; 中魚沼郡津南町城原——片桐 1975.
8. 25 NDC-2433; 谷上——片桐 1975. 8. 25 NDC-2434; 妙高山池の平——吉川 1947. 9.
21 KAN-10742
長野県大町市居谷里湿原——大町博物館 1958. 9. 3 TNS-133874; 戸隠山——矢田部・松

- 村 1884.7.11 TNS-13539~13541; 濁沢——桜井 1905.8. TNS-11145; 越水原——大川 1960.8.1 TNS-145519; 奥山 1960.8.1 TNS-304518; 飯山市岡山町タモギ平——水島 1953.8.14 MAK-4729; 更級郡大岡村大花見——峯村 1957.10.1 MAK-5202; 軽井沢借宿——佐藤 1954.10.9 TI; ハヶ岳——田中 1902. MAK (白花)
- 静岡県御殿場市長原——牧野 1904.8. MAK
- 石川県金沢市戸室山——吉本 1922.9.30 KAN-10764
- 福井県大野市坂谷村——堀 1953.8.14 TNS-130273; 敦賀市東郷町池ノ河内——小山 1961.8.25 KYO (n. 1071)
- 岐阜県中津川市根ノ上湿原——小宮 1992.9.5 NDC-4486; 中津川市——芹沢 1990.10.10 AICH (n. 57702); 蛭川村——芹沢 1990.8.23 AICH (n. 56384); 恵那市——芹沢 1990.8.23 AICH (n. 56406); 瑞浪市細久手弁天池——小宮 1981.9.27 NDC-3315; 瑞浪市——芹沢 1990.8.23 AICH (n. 56470); 山岡町——芹沢 1990.8.23 AICH (n. 56454); 土岐市——芹沢 1989.8.23 AICH (n. 52729); 御嵩町——芹沢 1990.8.8 AICH (n. 56264); 多治見市——伊藤 1990.9.27 AICH (n. 558); 高山市上枝町——本田 1925.8.13 TI
- 愛知県南設楽郡作手町鴨ヶ谷——村田 1959.9.24 MAK-52266, KYO (n. 13177); 長ノ山湿原——小宮 1984.9.8 NDC-3399; 設楽町西部——芹沢 1989.10.3 AICH (n. 53718); 豊橋市葦毛湿原——小宮 1967.8.14 NDC-2047~20521, 1969.8.24 NDC-2052, 1980.9.19 NDC-3308, 1990.9.9 NDC-4268; 1991.9.21 NDC-4369; 天伯町——小宮 1971.8.15 NDC-2405~2407, 1972.10.11 NDC-2421, 2422; 細谷町広見——小宮 1991.9.21 NDC-4400; 渥美郡赤羽根町——1980.7.19 NDC-3306; ムクロ山——小宮 1980.7.19 NDC-3307; 田原町——伊藤 1990.10.9 AICH (n. 573); 渥美町——芹沢 1990.8.9 AICH (n. 56328); 岡崎市南部——芹沢 1990.9.28 AICH (n. 57433); 額田郡幸田町須美——名倉 1896.9.20 MAK; 野場——三木 1934.10.14 OSA; 愛知郡猿投山——牧野 1902.8.27 MAK; 加藤 1940.9.22 TNS-82743; 豊明市大狭間——小宮 1993.8.6 NDC-4626; 豊田市東部——芹沢 1990.9.13 AICH (n. 57097); 豊田市北西部——磯貝 1984.8.27 AICH (n. 1609); 斎藤 1989.10.7 AICH; 瀬戸市——芹沢 1989.8.23 AICH (n. 52694); 春日井市——芹沢 1989.10.21 AICH (n. 54009); 犬山市——伊藤 1990.9.12 AICH (n. 500); 名古屋市北部——芹沢 1990.8.8 AICH (n. 56227); 名古屋市南東部——芹沢 1989.10.5 AICH (n. 53727); 知多郡阿久比町長根池——磯部 1985.8.27 NDC-3600; 小宮 1987.8.16 NDC-3737, 3738, 1991.8.9 NDC-4345~4347, 1991.9.15 NDC-4367, 1992.8.9 NDC-4424; 武豊町壺町田湿地——和田 1982.8.18 NDC-

3551; 小宮 1993, 8, 7 NDC-4627; 常滑市大谷湿地——磯部 1985, 7, 25 NDC-3597, 1986, 8, 14 NDC-3598; 柴田 1987, 9, 20 NDC-3799, 3800; 小宮 1993, 8, 7 NDC-4631, 1994, 9, 23 NDC-4963; 久米湿地——小宮 1993, 8, 7 NDC-4632

近畿: 滋賀県高島郡マキノ町——Nagai 1967, 9, 24 KYO; 三国山——丹信 1927, 9, 24 KYO; 蒲生郡日野町北脇岡——Umehara 1984, 10, 19 OSA-49462; 蒲生町石塔——Umehara 1985, 11, 2 OSA-52090; 甲賀郡甲西町正福寺——Umehara 1987, 7, 28 OSA-59115, 59117; 飯道山——橋本 1949, 9, 4 TNS-85778; 大津市田上山——上田 1960, 11, 3 OSA (n. 60110306)

三重県四日市市御池——安井 1950, 9, 9 TNS-109217, OSA, 1951, 8, 2 OSA; 小宮 1991, 8, 11 NDC-4359~4362; 鈴鹿市道伯池——中井 1951, 9, 8 KYO (n. 5636); 上野市比自岐大谷池——瀬戸 1982, 10, 2 OSA-50167, 1991, 9, 21 OSA-87614; 名張市桔梗ヶ丘明德池——瀬戸

1992, 8, 7 OSA -

93988; 松阪市鶴若池

——小宮 1971, 11, 3

NDC-2413~2415; 明

和町新池——小宮

1971, 11, 3 NDC-2416

京都府亀岡市——田川

1950, 11, 9 KYO

(n. 3754); ルリ溪

——広江 1951, 10, 13

KYO (n. 7201); 深泥

池——広江 1911, 10,

14 KYO (n. 15,

683); 小泉 1920, 10,

KYO; 丹信 1925, 9,

12 KYO

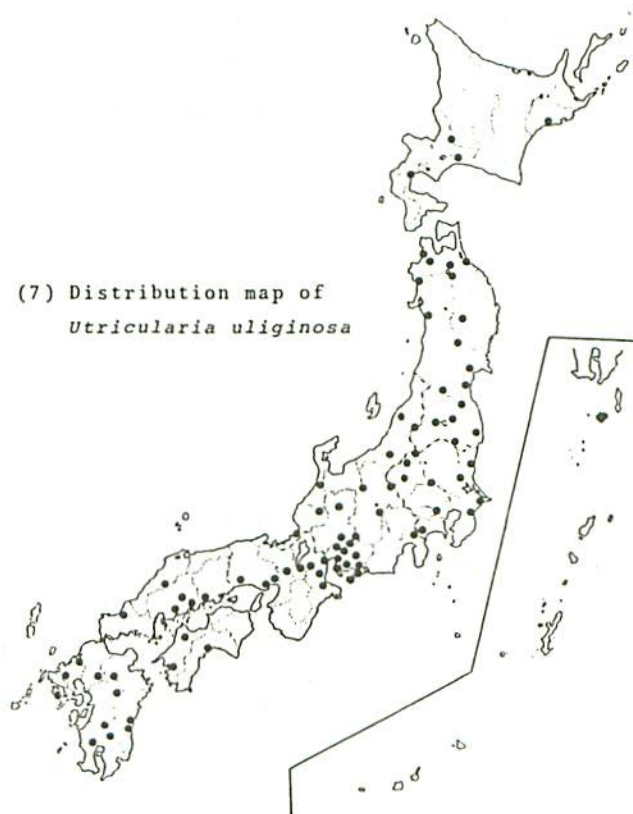
大阪府豊能郡能勢町山

辺——児玉 1961, 8, 16

OSA (n. 7279); 北河

内郡四条畷室池——瀬

(7) Distribution map of
Utricularia uliginosa



- 戸 1957.9.15 OSA (n. 7355) ; 生駒山甘水——小宮 1974.8.2 NDC-2426~2429
和歌山県五楚山——牧野 1892.9. MAK
兵庫県多紀郡今田町黒石——細見 1969.8.26 KYO (n. 8863) ; 西宮市向陽園——村田
1964.7.22 KYO (n. 18606), TI ; 甲山希望の森——柴田 1985.9. NDC-3605 ; 芦屋市
六甲山イモリ池——瀬戸 1971.10.1 OSA-12574 ; 六甲山——牧野 1935. MAK ; 六甲
山オタフク山——石川 1935.7.20 KYO ; 六甲山奥の池——石川 1938.8.24 TAI ; 神崎
郡大内村ダルマ峰——瀬戸 1963.8.5 OSA (n. 12489)
中国 : 岡山県川上郡阿部見山——西原 1901.8.30 MAK (n. 195) ; 吉野 1901.8. KYO ;
井原市——竹林 1935.8. MAK
広島県世羅郡甲山町別迫摺屋——内山 1987.10.19 NDC-3811 ; 世羅町切池——内山
1987.10.20 NDC-3812 ; 伊之藤池——内山 1987.10.20 NDC-3813 ; 御調郡久井町江木
——内山 1987.10.20 NDC-3814 ; 東広島市高屋町——坪島 1907. NDC-3533 ; 八本松
町長沢湿原——松本 1993.8. NDC-4743 ; 賀茂郡河内町——島井 1983.6.13 NDC-
3334 ; 用倉山——田代 1931.10.18 KYO
島根県飯石郡赤来町赤名——岸野 1911.8.22 KAN-3532 ; 邑智郡瑞穂町高原——宮本
1966.8.20 MAK-62090
山口県萩市松本——二階 1917.9.18 TNS-46394
四国 : 愛媛県周桑郡三芳町庄内——越智 1939.8.24 TI (n. 21) ; 今治市桜井——上窪田
1977.11. NDC-3297 ; 東宇和郡宇和町小野田谷ヶ内——野村 1960.8.15 KYO (n.
10) ; 宇和町岩木——野村 1962.10.7 KYO (n. 13)
高知県高知市五台山——牧野 1888.7.30 TI
九州 : 福岡県福岡市三ツ沢——石津 1962.10.21 NDC-2042 ; 八女市湯納楚——鍋島 1920.
10.24 KYO
佐賀県黒髪山——鍋島 1919.8. KYO ; 馬場 1960.8.24 TI (n. 2)
長崎県西彼杵郡大串村——千葉 1936.8.19 TI
熊本県阿蘇郡千町無田——上妻 1905.9.24 MAK (n. 436) ; 小国町杖立——田代 1921.8.
25 KYO ; 阿蘇——山崎 s. d. TAI-2855 ; 人吉市——上妻 1909.8.16 TNS-212316
大分県湯布院町小田ノ池——佐藤 1963.9.7 KAG-3351
宮崎県日向市美々津——平田 1955.8.13 MIYZ-7064 ; 児湯郡川南町鬼が久保——
Hatusima, Seko et Kawanabe 1958.10.20 KAG-22768, 22769, KAN-68474 ; 新茶屋
湿原——瀬野 1993.8.31 NDC-4737 ; 小宮 1993.11.9 NDC-4752 ; 川南湿原——長沢
1949.8.25 TNS-102176 (白花) ; 野村 1954.11.7 MIYZ-7063 ; 金丸 1978.9.7 MIYZ-

16889；瀬野 1993, 9, 15 NDC-4739；小宮 1993, 11, 9 NDC-4748；高鍋町高鍋湿原——瀬野 1993, 7, 30 NDC-4745；えびの市飯盛山——斎藤 1987, 7, 29 MIYZ, 1987, 10, 4 MIYZ；霧島山——田代 1919, 8, 8 TNS-39500；Seko 1962, 9, 7 KAG-4261, MAK-36431；甕岳——s. col. 1975, 9, 5 MIYZ-7065；金丸 1978, 9, 5 MIYZ-16890；小林市霧島山赤松千本——s. col. 1966, 7, MIYZ-7067
 鹿児島県薩摩郡蘭牟田池——今村 1927, 9, 2 OSA；屋久島花ノ江川——田川 1933, 8, 17 KYO (n. 1992), NDC-2402

〈腊葉標本庫の略記号の解説〉

AICH	愛知教育大学生物学教室
KAG	鹿児島大学農学部
KAN	金沢大学理学部
KOBE	神戸大学理学部
KUSI	釧路市立博物館
KYO	京都大学理学部
MAK	東京都立大学牧野標本館
MIYZ	宮崎県総合博物館
NDC	日本歯科大学生物学教室
OSA	大阪市立自然史博物館
SAP	北海道大学農学部
SAPT(B. G.)	北海道大学付属植物園
TAI	台湾大学理学部
TI	東京大学付属小石川植物園
TKB	筑波大学生物科学系
TNS	国立科学博物館
TOCH	栃木県立博物館
TUS	東北大学理学部
URO	琉球大学理工学部